令和７年度第２回犬山祭伝承保存委員会　次第

と　き　令和８年２月３日（火）
　　午後１時30分～３時00分
ところ　犬山市役所2F　205会議室

次　　第

１．　あいさつ

２．　報告事項

（１）犬山祭の保存・活用に関する届出等について・・・p.1～2
（２）令和７年度修理事業の進捗について
　①中本町修理事業（水引幕）・・・p.3～24
　②寺内町修理事業（車輪等）・・・p.27～52

３．　協議事項

（１）令和８年度修理事業について
　中本町修理事業（水引幕）・・・p.25
（２）令和９年度修理事業について
　名栗町修理事業（水引幕）・・・p.53～65
（３）保存修理に関する年次計画について・・・別紙１〔非公開〕

４．　その他

（１）令和８年度第１回委員会の開催日程について・・・別紙２

令和７年度第２回犬山祭伝承保存委員会出席者名簿

●日時　令和８年２月３日(火)　13時30分～15時00分
●会場　犬山市役所2F　205会議室

犬山祭伝承保存委員会委員　（敬称略・順不同）

役職名	氏　名		備　考
委員長	鬼頭　秀明	元文化審議会専門委員、中京大学非常勤講師	
委員長代理	菊池　健策	元文化庁文化財部伝統文化課主任文化財調査官	ご欠席
委員	入江　宣子	日本民俗音楽学会会員・民俗芸能学会会員	
委員	藤井　健三	財団法人西陣織物館顧問	
委員	石樽　康彦	日本ロボット学会会員・日本機械学会会員・工学博士	
委員	岩田　敏也	愛知県文化財保護審議会委員、東海工業専門学校講師	
委員	多和田　兼道	（一社）犬山祭保存会専務理事	
委員	小林　幹和	（一社）犬山祭保存会参与	
臨時委員	栗谷　和男	令和６～８年度事業実施町内(中本町)代表	任期:中本町修理事業完了迄
臨時委員	三輪　征宏	令和７年度事業実施町内(寺内町)代表	任期:寺内町修理事業完了迄

オブザーバー　（敬称略）

氏　名		備　考
前田　俊一郎	文化庁文化財第一課民俗文化財部門主任文化財調査官	
波多野　晶	愛知県県民文化局文化部文化芸術課文化財室主任	

事務局

氏　名		備　考
中村　達司	犬山市教育委員会教育部長	
加藤　憲夫	犬山市教育委員会教育部歴史まちづくり課長	
小川　正広	犬山市教育委員会教育部歴史まちづくり課長補佐	
市野　恵子	犬山市教育委員会教育部歴史まちづくり課統括主査	
輿石　みゆき	犬山市教育委員会教育部歴史まちづくり課	

犬山祭〔国・県指定文化財〕に関する届出等について（前回委員会以降提出分）

1．現状変更、保存に影響を及ぼす行為等			
なし			
2．管理責任者の選任又は解任			
なし			
3．所有者等の変更			
なし			
4．所在の場所の変更			
なし			
5．滅失、き損、亡失等			
6．修理			
①	届出先	愛知県知事	届出者 ： （一社）犬山祭保存会
〔内容〕※R7/5/7 提出の毀損届に対応する修理届　　届出日：R7/11/30 ○毀損箇所と状況 ・別紙参照 ○修理内容等 ・別紙参照 ○着手及び完了の時期 ・別紙参照			
7．その他			
なし			

車山等の不具合等に関する報告（令和７年犬山祭終了後の照会による新規報告案件）

	箇所・内容	発生時期	原因	その他参考情報	確認日程	確認結果	毀損届	修理方針	修理届	実施内容	修理終了届
枝町	提灯受けの破損	R7犬山祭	経年劣化・車山運行に伴う振動	・提灯設置時のみ車山に装着する木枠であり、車山本体の一部ではない。 ・応急処置済（結束バンドにて固定）。	－	－	対象外	町内は新規製作による取替を検討中。	対象外		対象外
魚屋町											
下本町	からくり人形の部品である舞棒（桧製）の片側端部の亀裂破損【R6届出済】	R6/10/20	催事前の点検準備中の落下	・からくり仕掛けには影響のない箇所の破損である。 ・応急処置済（結束バンドにて固定）。 ・人形師に相談の上修理方法を検討予定。	未定		済 (R6)				
	からくり人形の糸切れ	R7犬山祭前の点検時	操作による糸の消耗	・別糸で応急処置済。 ・人形師に相談の上適切な絹糸に交換予定。	未定		対象外		対象外		対象外
中本町											
熊野町											
新町											
本町	梵天装着用の木製パーツ（屋根に取り付けられている）の留め金具はずれ	R7犬山祭	不明	・できればR7年度中に車山の解体点検を実施し、その際に対応を検討したい。他にも不具合箇所があるかもしれない。	R7/5/12	木製パーツの頭部にひび割れが生じていることが留め金具が外れた原因である。 【確認者：市野→岩田委員に報告】	済 (R7)	・木製パーツに新しい留め金具を打ち直し、固定のために側方から別釘を打ち込んで留め金具の腹を貫通させる（⇒既存の木製パーツを継続使用する）。	済 (R7)	修理方針どおり実施 5/29確認 【確認者：市野】	済 (R7)
	車輪（左前後）の座板の釘が抜けてくることによる鼻栓（×3）の破損【R6届出済】	R7犬山祭 （この不具合は以前から発生していた）	車輪の座板の釘が飛び出ていること 車輪と車軸の隙間が大きく角曲がりの際に車輪が大きく傾くこと	鉄製のワッシャーの新設を最優先で検討中。	R6/8/20	正面向かって左（前後）の車輪の座板の釘抜けが著しい（左前後の車輪の外側は座板と金物が溶接されていない）。 【確認者：岩田委員】	済 (R6)	・鉄製のワッシャー（×4）の新設。 ・鼻栓（×2）の取替え。 ※座板の釘の取替えは見送り（将来的な車輪修理と併せて実施を検討する）	済 (R7)	修理方針どおり実施 5/29確認 【確認者：市野】	済 (R7)
練屋町											
鍛冶屋町	（屋根）軒押さえで軒板を固定しているが、軒板に打たれている鉄釘、軒押え側の穴、紐付きの釘の関係が悪く、良好に固定できない。	不明（確認したのはR6の犬山祭後の点検時）	これまでの組みばらしによる	－	R7/4/7 （車山解体時）	軒板の固定が困難な状況である。 【確認者：岩田委員】	済 (R7)	・軒板に打たれている軒押さえ釘を取替える（12箇所すべて）。新規製作する軒押さえ釘は鍔付きの釘とする（釘が沈み込まないための対策） ・既存の釘はすべて保管し、これまでどのように使われていたものか記録を残す。	済 (R7)	（9/25引渡；現在修理中）	
	下山後方の琵琶板裏面の反り止め材の蟻ほぞ部分が割損し、反り止め材がはずれている。	不明（確認したのはR6の犬山祭後の点検時）	蟻ほぞに側面から力が加えられたことによる	－	R7/4/7 （車山解体時）	構造的には大きな問題はないが部材の損傷への対応が必要。 【確認者：岩田委員】	済 (R7)	・反り止め材を同寸同形で製作して取替える。 ・蟻穴に付着した接着剤は剥がし取る。	済 (R7)	（9/25引渡；現在修理中）	
	中山台輪の端部にひび割れが生じ、木鼻獅子の固定用部材を留める釘が効かない状態である。新たな釘を打っても同様に効かない状態。	不明（確認したのはR6の犬山祭後の点検時）	－	－	R7/4/7 （車山解体時）	他の台輪の端部も同様の状態に近い。 【確認者：岩田委員】	済 (R7)	①台輪端部は割れている部分を埋木し、契を入れる。 ②木鼻獅子天端固定用部材は穴だらけなので新調する。 ③②を①に固定するための方法はこれまでの平釘の代わりにねじ釘を打つ（抜け落ち防止対策）。	済 (R7)	（9/25引渡；現在修理中）	
	下山縁葛下の腕木のうち２個においてほぞ穴から端部にかけての部分が欠損している。	不明（確認したのはR6の犬山祭後の点検時）	栓を強く打ち込んだことによる	－	R7/4/7 （車山解体時）	栓が効かない状態の腕木がある。 【確認者：岩田委員】	済 (R7)	①欠損箇所を蟻で埋木する。欠損していないものもひびが入っているものは必要に応じて埋木する。 ②栓を強く打ち込みすぎることができないように引っかかりのある形状の鼻栓にする。	済 (R7)	（9/25引渡；現在修理中）	
名栗町	中山縁葛交差部の隅扠首の先端（木口）の飾り金具の落下。	R7犬山祭	車山運行に伴う振動によって真鍮製の釘が抜け落ちたことによる	－	R7/4/17	飾り金具に打たれている真鍮製の釘は時折抜けてくるとのこと。次回車山解体時に金具の総点検を。 【確認者：市野→鬼頭委員長に報告】	済 (R7)	町内の指物師に相談のうえ真鍮製の釘を打ち直す予定。			
寺内町	中山厩手の横の唐草の彫刻（平桁と地覆に差し込まれている）が破損している。	もともと破損していたものを町内で修繕して使い続けていた	R7犬山祭後の取り外し時の落下が今回の破損の原因	彫刻のかかりが浅く、落下しやすい造りである。	R7/5/27	左右一組の彫刻であり、一方（A）には破損と欠損が見られ、もう一方（B）には欠損が見られる。Bには明確に破損と判る箇所はないが、町内修理が繰り返されているので詳細調査をしたら破損箇所があるかもしれない。 【確認者：岩田委員】	済 (R7)	①破損部の接着（接着剤と羅いダボで接着する。 ②欠損部の復元（強度のための彫刻の形態の変更はしない） ③①②によって剥離する金箔の箔押し（部分的にはできないため全体を箔押しし直す ※R7国庫補助事業への追加を検討する	－	国庫補助事業へ追加できなかったため当面修理は見送り	－
余坂町											
外町	芯棒のゆがみ	約20年前から	経時変化	－				町内は将来的に国庫補助事業で保存修理を希望（待機リストにエントリー済）。			
	梶棒の亀裂	約20年前から	運行の衝撃	金属板で亀裂箇所を巻いている。							
	斗（部分）の割れ	R7犬山祭前の車山組み時	車山組み中の落下	町内で補修済（木工用ボンドにて接着）。							

中本町車山「西王母」

中本町保存修理事業　修理概要

（1）　文化財の概要

イ．名称等

名称	所在地	指定年月日	備考
犬山祭の車山行事 （中本町）	犬山市内（中本町）	H18.3.15.	中本町懸装幕 （水引幕復元新調）

ロ．過去における事業の内容とその実施年度（自費事業を含む）

天保 04 年（1833）　からくり人形修復
天保 11 年（1840）　車山修復
慶応 03 年（1867）　下山幕新調　←今回復元新調中の水引幕
明治 35 年（1902）　唐子人形修理
大正 11 年（1922）　中幕新調
昭和 47 年（1972）　下山柱復元新調 ＜県費補助事業＞
昭和 50 年（1975）　上山・中山修理 ＜県費補助事業＞
平成 03 年（1991）　車山構造外装修理 ＜県費補助事業＞
平成 13 年（2001）　水引幕修理　←今回復元新調中の水引幕
平成 14 年（2002）　からくり人形復元新調 ＜県費補助事業＞
平成 20 年（2008）　梶棒復元新調 ＜県費補助事業＞
平成 27 年（2015）　水引幕修理（網掛け保護）　←今回復元新調中の水引幕
令和 06 年（2024）　水引幕復元新調（右面）＜国庫補助事業＞

ハ．復元新調する幕の現在（修理前）の状況

中本町の車山「西王母」に懸装される現用の水引幕「金地瑞雲麒麟文様刺繍幕（前後左右各 1 面）」は慶応 3 年製作と伝えられ、図柄や製作仕様からさらに幾分古い時期のものである可能性も考えられる。製作時以来の経年変化によって相当な損傷が見られたことから、平成 13 年に全面的な綴じ直しの修理、平成 27 年には損傷部分を覆う網掛け刺繍による保護措置が行われている。現在、幕全体にわたり刺繍糸の剥落や綴じ糸の欠損などが進んでいるが、再度の修復は不可能な状態であり、早期に新調する必要がある。

（2）　事業の内容

イ．概要

修理内容（予定）

<u>令和 6 年度</u>

・水引幕（右面）１面の復元新調
・水引幕刺繍内の金具（水引幕４面分）の復元新調

令和７年度

・水引幕（前後面）２面の復元新調

令和８年度

・水引幕（左面）１面の復元新調

・水引幕天部の現用錺金具（水引幕４面分）のクリーニングと調整

工期

令和６年４月～令和９年３月（予定）

請負業者及び契約金額

令和６年度

㈱龍村美術織物　金 14,828,000 円（契約済）

令和７年度

㈱龍村美術織物　金 18,194,000 円（契約済）

令和８年度

―　　金 12,738,000 円（見込）

ロ．工事事務

・犬山祭伝承保存委員会で了承された修理方針に基づき、犬山祭の車山行事（中本町）修理委員会の監修のもと、適切に事業を実施する。

〔修理委員会の構成〕

中本町代表者

鬼頭秀明氏（犬山祭伝承保存委員会委員長）※R6 監修者（6 月以降）

藤井健三氏（犬山祭伝承保存委員会委員）　※R6, R7, R8 監修者

久保智康氏（犬山祭伝承保存委員会委員）　※R6 監修者（6 月迄）

・国庫補助事業の特別会計を設け、帳簿を作成し、適切に予算を執行する。

・詳細な修理記録を作成する。

ハ．工事仕様

原則として現在の水引幕の仕様（素材、技法、寸法等）を踏襲して新調する。

詳細は別添仕様案参照。

ニ．その他

水引幕の復元新調後、現在の水引幕一式は保存する。

中本町車山「西王母」　水引幕　現況（修理前）

R7

水引幕（金地瑞雲麒麟文様刺繍幕）

前面
製作時以来の長年にわたる経年変化によって著しく損傷していたため、平成13年に全面的な修理、平成27年に網掛け刺繍による保護措置を行っている。修理によって外観が損なわれているうえ、今後の使用にも耐えない状態となっている。

R7

水引幕（金地瑞雲麒麟文様刺繍幕）

後面
前幕に同じ。

R8

水引幕（金地瑞雲麒麟文様刺繍幕）

左面（進行方向向かって左）
前幕に同じ。

R6

水引幕（金地瑞雲麒麟文様刺繍幕）

右面（進行方向向かって右）
前幕に同じ。

水引幕細部

平成 13 年の修理、平成 27 年の保護措置以後も幕の損傷が進んでいる。

※水引幕 4 面とも、広範囲にわたって刺繍糸の劣化、剥落、欠損が見られる。

水引幕細部

綴じ糸の欠損による刺繍糸の剥落が進んでいる。

※水引幕 4 面とも、広範囲にわたって刺繍糸の劣化、剥落、欠損が見られる。

中本町車山「西王母」　水引幕　現況（修理前）

R6

水引幕刺繍内の金具

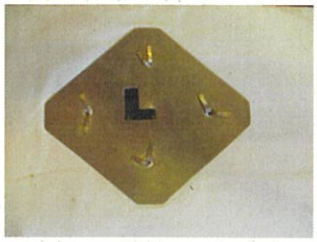
麒麟の黒目が 4 面で計 12 個、白目が 4 面で計 12 個、牙が 4 面で計 6 個付いている。原品を保存し、新調幕用の金具を復元新調する。

R8

水引幕天部の木瓜紋錺金具

4 面で計 18 個付いている。原品をクリーニングし、新調幕で再用する。

裏座金



令和7年　6月9日

犬山祭　中本町　西王母　水引幕　　復元新調　　実施仕様書

原幕をもとに、現在の技術を駆使し、素材も含め可能な限り原品に近い復元を行う。
また、各工程においても万全な管理体制のもとに制作を行う。

水引幕「金地瑞雲麒麟文様刺繍幕」（前・後面・2枚）

表地（本紙）裂　総刺繍

① 技 法　地場:　本金（丸金糸）の折り返し駒詰め。
麒麟:　絹糸による唐縒り・撚り金糸の駒詰め。
部分的に紙縒り・ワタを用いた盛り上げ。
髭:　巻き立て刺繍。
瑞雲:　絹糸による唐縒りの駒縫い。

② 素 材　繡糸　正絹
本金糸
綴じ糸　正絹

目・牙　別紙「中本町水引幕　金具復元新調仕様書」に基づき
内容は下記の通り。
・黒目：銅(厚0.8mm)・黒漆焼付・割足付　各2個
・白目：銅（厚0.8mm）・水銀箔鍍銀（中央穴有）　各2個
・裏座：真鍮（厚0.8mm）　各2個

・牙：洋白（厚0.7mm）・割足2箇所付　各1個
・裏座：真鍮（厚0.8mm）　各1個
金具保護の為、ベンゾトリアゾールをエタノールで
希釈して塗布する。

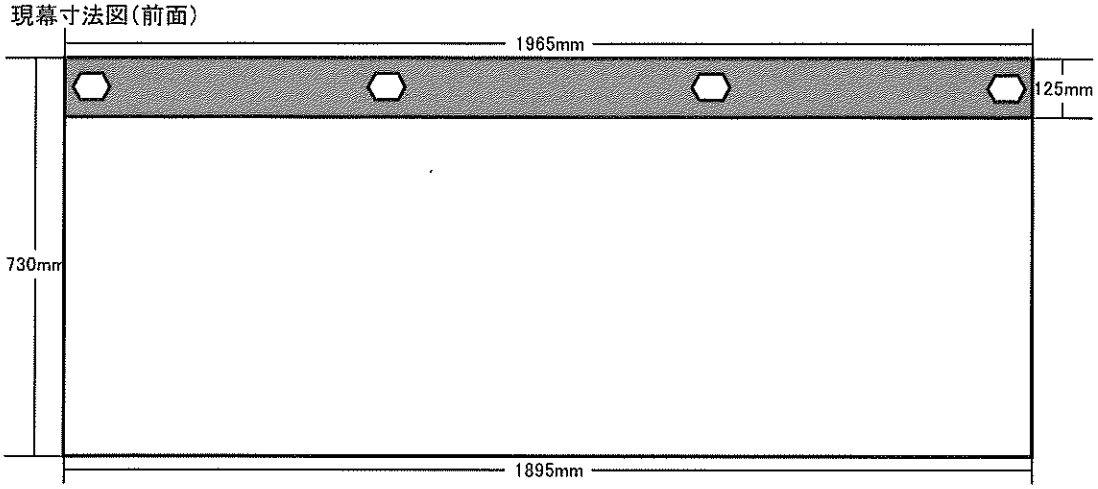
③ 色 数　19色（本金糸含）
④ 染 料　主として酸性染料　・　含金反応染料（堅牢染）

上辺部裂・覆輪裂（前後左右幕共通・下記の項目含）
黒羅紗　1.4mm
上辺部・吊り板　白木平板（桧）
天部の錺金具　4個　原品再利用　（前後・同様）
芯地　綿布
裏 裂　麻
仕立て　① 規格寸法　前後面　外寸　約　(H)　745　×(W)　1,965　（ mm ）
詳細は車山本体への取付状態等により調整予定

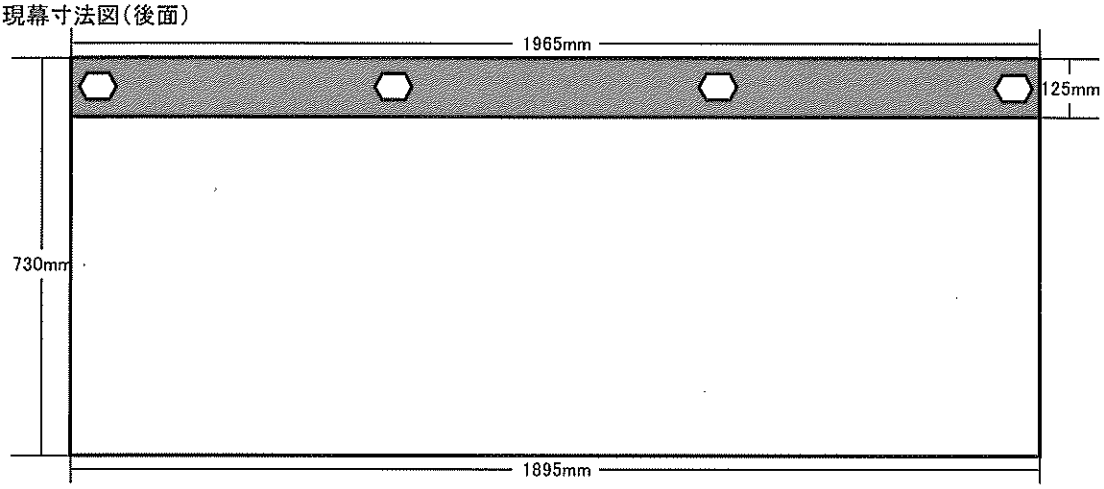
② 縫 製　縫製及び仕立ては原幕仕様に準じて、巡行に耐えられる
堅牢なる仕立てを行う。

中本町水引幕「金地瑞雲麒麟文様刺繍幕」寸法図

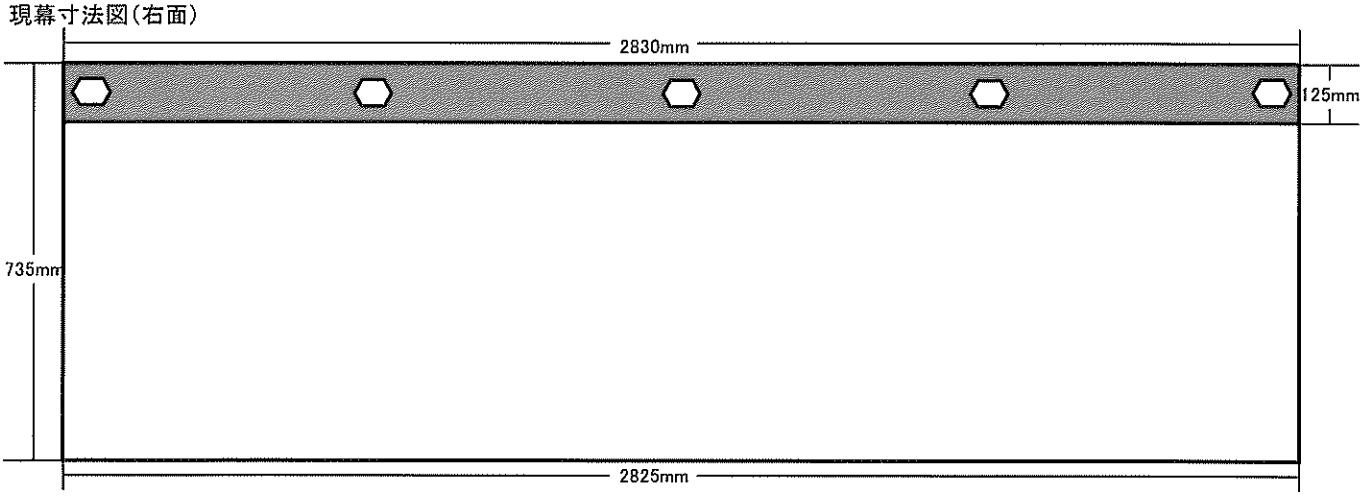
現幕寸法図(前面)



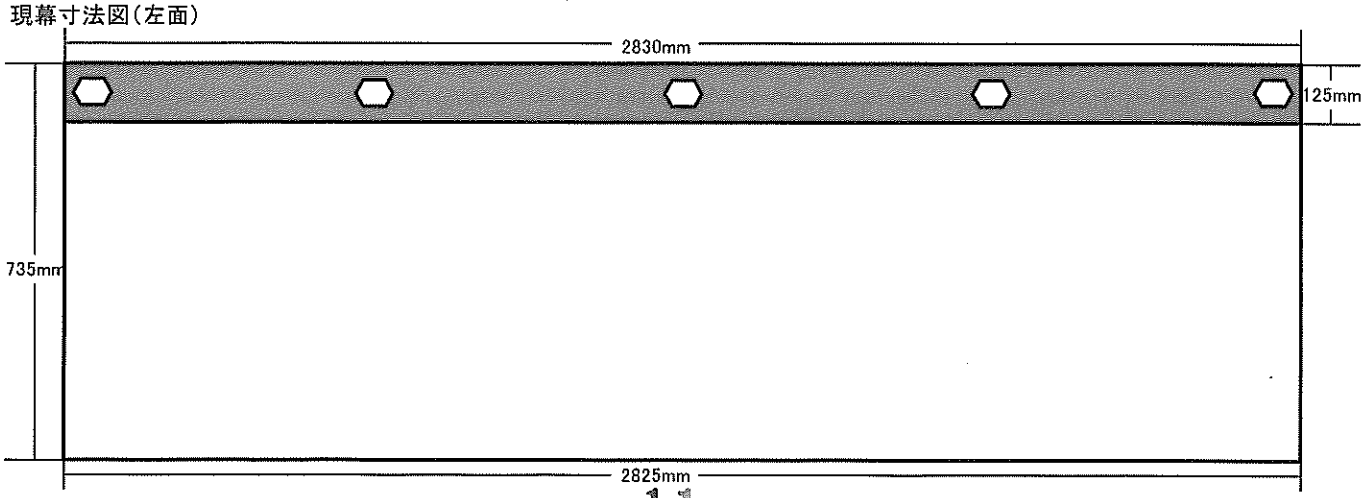
現幕寸法図(後面)



現幕寸法図(右面)

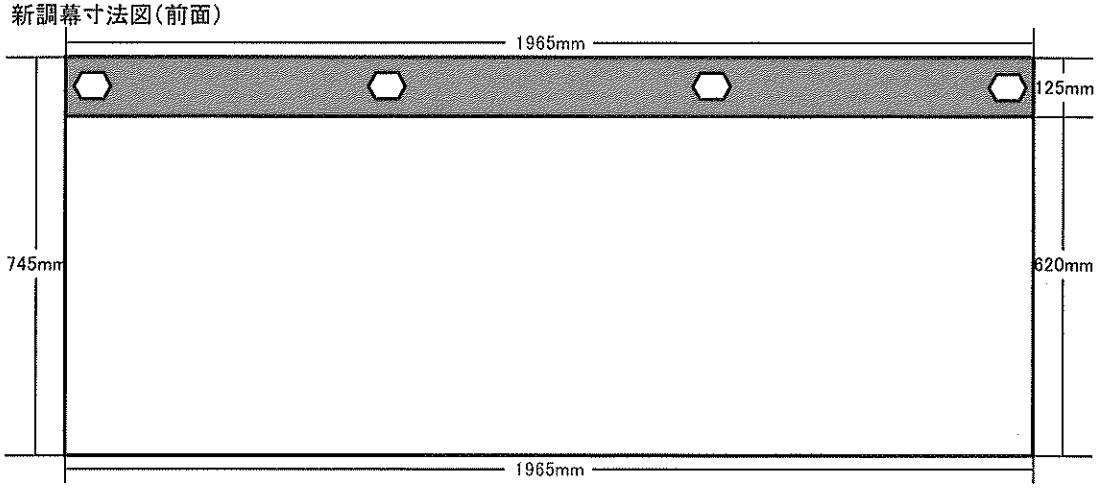


現幕寸法図(左面)

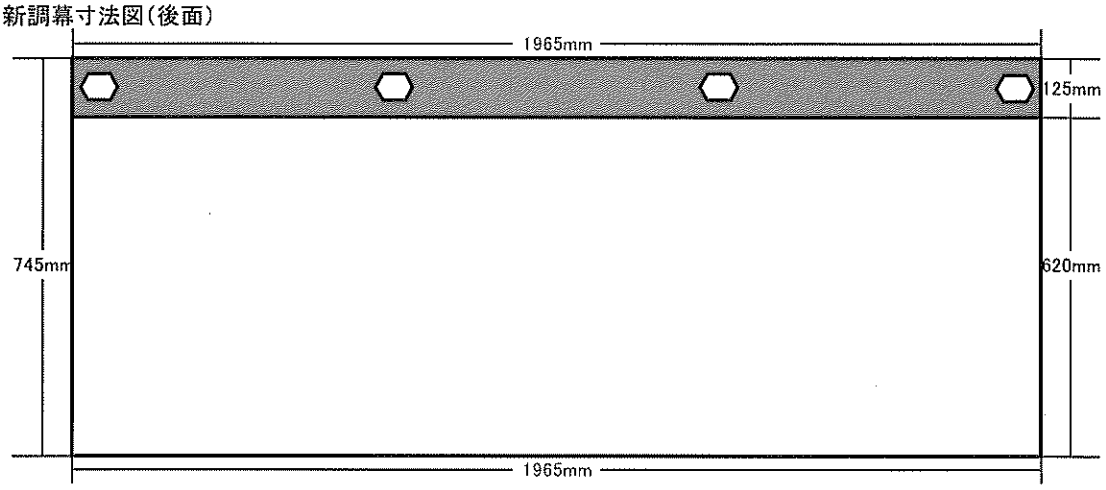


中本町水引幕「金地瑞雲麒麟文様刺繍幕」寸法図（案）

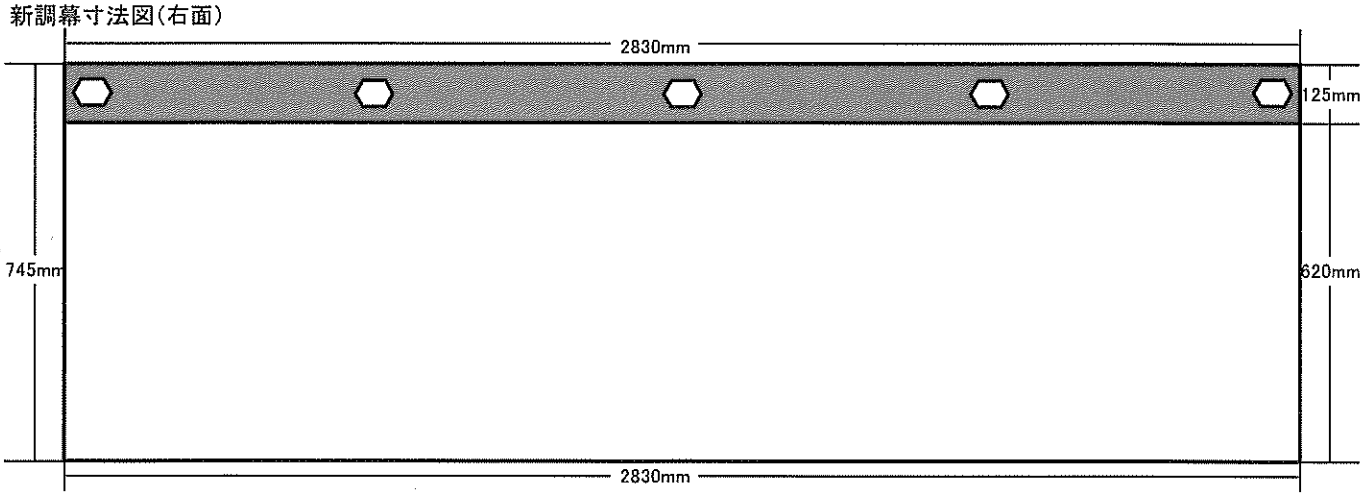
新調幕寸法図（前面）



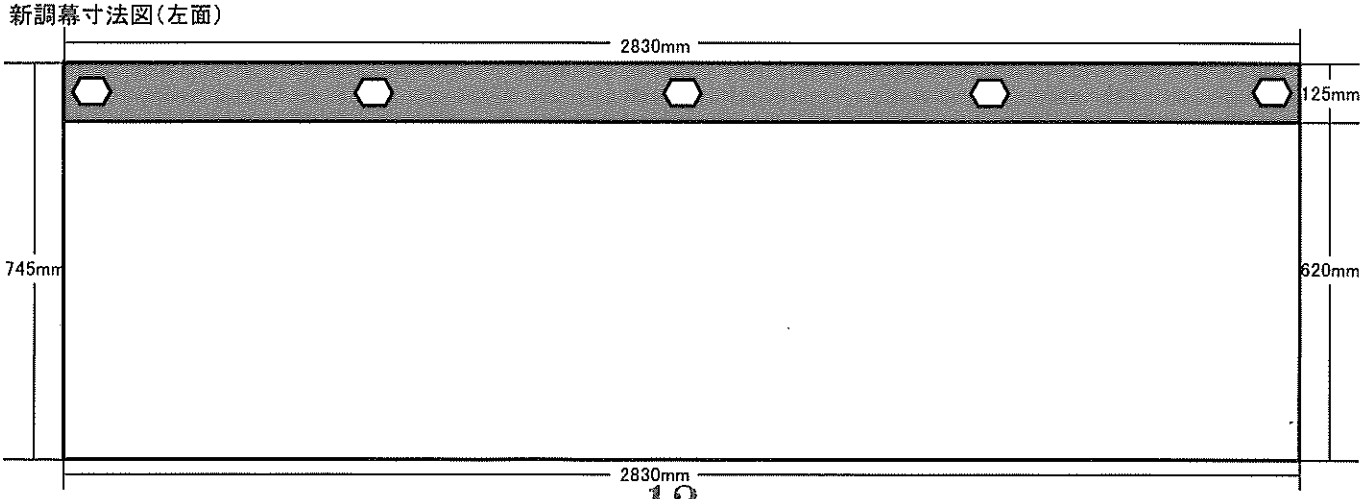
新調幕寸法図（後面）



新調幕寸法図（右面）



新調幕寸法図（左面）



5．工程表（中本町水引幕復元新調）

事業名	重無民　犬山祭の車山行事 民俗文化財伝承・活用等事業	期間	（当該年度）交付決定後着手～令和9年3月31日完了 （全体計画）令和6年4月11日着手～令和9年3月31日完了

施工部目	全事業に対する比	令和６年度												令和７年度												令和８年度											
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
水引幕（側面1枚）																																					
原品調査	1%																																				
図案	2%																																				
下絵	7%																																				
糸準備	2%																																				
配色	2%																																				
染織	2%																																				
試作	5%																																				
本品刺繍	66%																																				
刺繍部材（金具）幕4枚分																																					
試作	1%																																				
製作	8%																																				
吊り板（幕1枚分）	1%																																				
仕立て	2%																																				
修理事務	1%																																				
	100%																																				
水引幕（前後面各1枚）																																					
原品調査	1%																																				
図案	2%																																				
下絵	8%																																				
糸準備	2%																																				
配色	2%																																				
染織	2%																																				
本品刺繍（後面）	40%																																				
本品刺繍（前面）	40%																																				
吊り板（幕2枚分）	1%																																				
仕立て	1%																																				
修理事務	1%																																				
	100%																																				

施工部目	全事業に対する比	令和6年度												令和7年度												令和8年度											
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
水引幕（側面1枚）																																					
原品調査	1%																																				
図案	2%																																				
下絵	7%																																				
糸準備	2%																																				
配色	2%																																				
染織	2%																																				
本品刺繍	80%																																				
錺金具（幕4枚分）																																					
洗い	1%																																				
吊り板（幕1枚分）	1%																																				
仕立て	1%																																				
修理事務	1%																																				
	100%																																				

14

■犬山祭中本町水引幕「金地瑞雲麒麟文様刺繍幕」製作の７年度事業監修会の報告

(報告:2025, 6, 9)

●監修の実施について

◎日時　…令和７年６月９日。１３時３０分～１５時３０分

場所　…龍村美術織物本社会議室

参加者　…監修者　藤井健三

製作社　谷口（龍村美術織物）

清水（龍村美術織物）

小林（龍村美術織物）

●監修事項の内容について

◎配布資料（龍村美術織物作成）

・犬山祭中本町「西王母」水引幕（前後面２枚）復元新調の実施仕様書（１枚）

・犬山祭中本町水引幕　復元新調（仮）工程表

◎５月２７日の犬山祭伝承保存委員会での６年度事業経緯の報告および７年度事業について

・６年度の事業経緯については了解を得られた。また７年度の事業については「６年度の製作については当初の予想以上に時間を要する仕事であったこと。そして近年は幕製作に従事する刺繍技術者が減少し、その対応に困じていること。つまり７年度の製作には刺繍実技の製作協力者を得て進めることとなる次第の説明をし、委員から質問等意見はなく了承が得られたものと思われる。ただし県の担当者からは計画通り手抜きのない報告を望む」との進言があったことを龍村美術織物に伝えた。

◎７年度の事業の進捗についての打ち合わせの内容

・製作する幕２面の下図（作成済）の確認をする（現幕の縮みなどを解消して訂正をした後の下図）。

・製作に用いる色糸および金糸等について、今後に必要な全量分の確保の確認をする。

・刺繍製作に従事する２名の職人の間で常時に意見交換と進捗状況の確認を目視して行うことの確認。

・６年度に製作した幕の表現を基本におき、それらと調和のとれた作業を行うことの確認。

・付属の金具については総て６年度に調製済である。また飾り金具についても再利用の方向で進めることの確認。手法については今後に検討。ただし一文字部分に用いる吊り板については新調（檜；板目板）をする。

・７年度以降分の試作については、６年度に製作した本幕をそれに充て、個別の試作製作は

不要と判断した。

・次回の監修会は製作の良否の確認、また明確な指示や判断を行える程に作業が進んだ時点とする。約１／３程度の作業が進んだ頃で、９月頃かと推される。

◇以上の事項について互いに了承をし、７年度第１回目の監修会を終えた。

以　上

案件名	愛知県犬山市 R7年度 犬山祭中本町水引幕復元新調
会議名	監修会(#1)
日時	2025年6月9日(日)13:30-15:00
場所	本社2階会議室
出席者 (敬称略)	・監修:藤井 ・龍村美術織物:制作部谷口・清水／営業小林(議事作成)
議題	1. 全体の委員会の共有(藤井先生より) 2. 前後で手が変わることについての対策 3. 幕のサイズと吊り板について 4. 前年度の幕について(藤井先生より) 5. その他
配布資料	特になし
現物資料	水引(前・後)・下絵・図案・絹糸
todo	・8～11月の監修のうち、どのタイミングで文化庁、監修者、行政にみてもらうのか時期を決める
決定事項	・本品着手

議事要旨	1. 全体の委員会の共有ほか(藤井先生より) ・前後で手が変わることを文化庁、監修者、行政、ご町内に共有し、その点で特に質問はなかった ・文化庁の前田さんたちや他の監修者、行政側が全く見ないまま進むのが心配 ・今年どこかのタイミングで全体の監修会を行いたい ・図案は、それがないと報告書で説明がしにくいのであったほうがよい ※すでに図案作成済 2. 前後で手が変わることについての対策 ※前:出原さん、後:内田さん ・手を合わせるため、出原さんに接写の写真を送り、時々行き来してお互いの縫い方の確認をする(谷口) ・糸は内田さんで全て準備して出原さんへ渡している(谷口) 3. 幕のサイズと吊り板について ※下絵の確認をしながら ・下絵は、元の大きさに戻したもので、下絵の点線は現状の幕のすぼまりを示している(清水) ・幕の下部すぼまりについて、前回の修理の時に傷んでいる部分を内側に入れた(谷口) ・水引上部の吊り板のサイズが水引の幕の幅に合っているか(藤井) →ほぼ合っている(谷口) 4. 前年度の幕について(藤井先生より) ・仕上がりについては、問題ない ・町内からも特に質問なし ・地引が(金地の部分)がぴちっと揃っていてよい ・麒麟のおなかの肉入れ、初回見たときはだらりとしていたが、修正後は直されておりよかった 5. 吊り板の金具について ・今度新調する木部は乾燥した板目のほうがいい(柾目はわれやすい)(藤井) ・吊り板の金具の割足は直すのか(取り外しで割足が金属疲労でとれる可能性がある)(藤井) →要相談。直すとしてもメッキが飛んで色が飛んでしまう可能性がある(谷口) 6. その他 ・幕の縮みの関係で仕立てを一挙に行う ・今年度も順調に進められることを確認した(藤井)

監修会の様子

中本町修理委員会（監修会）記録

日程：　令和７年８月８日（金）13:00～16:30
会場：　㈱内田刺繍工房・出原刺繍
出席者：委員（監修者）
　　藤井健三氏
　　修理請負業者（㈱龍村美術織物）
　　谷口仁志氏、清水紀郎氏、小林諒子氏
　　修理下請負業者（㈱内田刺繍工房）
　　内田暁氏
　　修理下請負業者（出原刺繍）
　　出原一雄氏
　　事務局（市教育委員会歴史まちづくり課）
　　市野恵子

１．新調水引幕の刺繍の進捗

○全般

・　昨年度製作した水引幕（右面）は㈱龍村美術織物本社の保管庫内で保管中。
・　今年度の製作は前面、後面ともに原本となる現幕を手元に置いて作業を進めている。
・　技法、素材は昨年度の実施仕様とすべて同じ。

○後面（刺繍担当：㈱内田刺繍）

・　刺繍の進捗は、現時点で４割程度でこれから本番という段階。
・　糸は、後面分だけでなく前面分もすべて㈱内田刺繍で準備している（糸に撚りをかける作業は撚る人が違うと仕上がりが違ってくるため）。
・　作業の過程で昨年度と変わる部分は基本的にない。
・　刺繍は適切に進められている。麒麟の腹部の盛り上がりなども右面と同様であり良好である。
　※部分的な盛り上げには、座布団わたを墨で着色したものを用いている。
・　現在の調子で作業が進められれば、技術的にも工程的にも問題はない。

○前面（刺繍担当：出原刺繍）

- 刺繍の進捗は、現時点で８割程度。地場と瑞雲はほぼ出来上がっている。麒麟もかなり進んでいる。順調に行けば秋には刺繍が上がる見込み。
- 瑞雲の黄緑色のふちは白色のふちに比べると細くて少し弱く見えるが、これは原本に忠実に復元した結果である。
- 現幕では麒麟の髭が牙の上をまたいでいる。これも忠実に再現する。
- 現幕の刺繍は、あまり盛り上げずに綴織のような仕上がりを目指したもののように感じられる。
- 刺繍は後面の表現によく揃えられている。人それぞれ手の癖が違うので揃えるのは難しい。

２．新調水引幕の天部錺金具と吊り板の製作（令和８年度作業）について

- 天部錺金具は再利用する。地金が表出しているものがあるが、本事業では洗いのみ実施。
- 再利用のために錺金具を脱着する際、背面の割足（各４箇所）が取れてしまった場合は鑞付けなどによって接着する必要がある。その際に鍍金に影響が出た場合の対処は要検討。
- 吊り板は、事業最終年度の終盤に新調幕４面を並べて採寸してから製作する。材はヒノキ製の素木平板、厚みは現幕の板と同じとする。

３．その他

- 令和８年度製作の左面の刺繍は㈱内田刺繍が担当。
- 今年度、文化庁の指導を受ける機会は、先方の都合を確認のうえ、秋頃で調整する。その際は犬山祭伝承保存委員会の鬼頭委員長にも同席してもらえるとよい。

中本町修理委員会（監修会）記録（1）

日程：　令和7年12月11日（木）10:30～11:45
会場：　出原刺繍
出席者：委員
　　藤井健三氏（監修者）
　　修理請負業者（㈱龍村美術織物）
　　谷口仁志氏、小林諒子氏
　　修理下請負業者（出原刺繍）
　　出原一雄氏
　　事務局（市教育委員会歴史まちづくり課）
　　市野恵子

1．新調水引幕（前面）の刺繍の進捗

○前面（刺繍担当：出原刺繍）

- 刺繍の進捗は、現時点で9割強。幕全体に統一感があり整っている。
- 残りの作業は目玉の金具の装着と眉毛の刺繍のみ。眉毛の刺繍は内田刺繍担当幕の詳細（紙縒りの量、金糸の太さ）を確認のうえ進める。
- 金糸の刺繍は、綴じ糸の色や金糸の太さの違いによって模様が上手く表現できている。
- 麒麟の髭は牙の金具の上を滑らかにまたいで下へ落ちている。劣化した原幕の髭と比較すると自然なカーブが蘇っていて美しい。
- 麒麟の躯体のうろこ状の毛並みは金糸が混ざった深緑色の糸で刺繍されている。撚られた糸の金糸の量は多すぎても少なすぎてもよくないが、原幕に忠実な適正な配分になっている。
- 刺繍は後面の表現によく揃えられている。

中本町修理委員会（監修会）記録（2）

日程：　令和7年12月11日（木）13:30～15:00
会場：　㈱内田刺繍工房
出席者：委員
　　鬼頭秀明氏、藤井健三氏（監修者）
　　来賓
　　前田俊一郎氏（文化庁）、波多野晶氏（愛知県）
　　修理請負業者（㈱龍村美術織物）
　　谷口仁志氏、清水紀郎氏、小林諒子氏
　　修理下請負業者（㈱内田刺繍工房）
　　内田暁氏
　　修理下請負業者（出原刺繍）
　　出原一雄氏
　　事務局（市教育委員会歴史まちづくり課）
　　市野恵子

1．新調水引幕（後面）の刺繍の進捗

○全般

・ 令和7年度の刺繍分担の確認
・ 出原刺繍担当幕の進捗の報告
・ 仕立てに関するスケジュールの確認

○後面（刺繍担当：内田刺繍）

・ 刺繍の進捗は、現時点で9割強。今後、細部の確認と最終の調整を経て仕上げる。出原刺繍担当幕との調和も最終点検し、相違点があれば修正する。
・ 前面と後面の刺繍の表現を統一するために、図案はすべて龍村美術織物が指定し、糸はすべて内田刺繍が撚りをかけて用意している。綴じ糸のピッチも揃えている。雲の糸の流れなどは、それぞれの工房が原幕を忠実に復元するかたちで作業を進めている。
・ 原幕の製作年代は特定できていないが江戸末期と伝えられている。麒麟の口元の赤い染料を見るともう少し遡る可能性も考えられるが、牙の素材である洋白は通常は近代以降のものと考えられている。
・ 新調に使用した絹糸は化学染料で染めているため年月が経っても原幕ほど退色しない。金糸は本金糸（1号色）なので少し落ち着いた色にはなるがきれいなまま長く保たれる。
・ 新調幕も年月とともに縮むことは避けられない。特に雨に濡れると確実に縮むので注意が必要である。
・ 原幕は部分的に傷みが著しい。車山への着脱時や収納時の取り扱いには慎重さが求められる。
　➢ 幕を触るときには手を洗ってからきれいな手で触るのが一番よいが、祭りの最中にそれが不可能なら手袋をして触る方法もある。但し手袋をすれば汚れはつかないが幕が擦れるということを意識しなければならない。
　➢ 原幕の麒麟のうろこ状の毛並みは尾根の部分が擦れている。収納時は幕と幕の間に薄葉紙を入れて重ねたほうがよい。

２．令和８年度事業計画

○幕本体

・ 令和８年度製作の左面の刺繍は内田刺繍が担当。
・ 技法、素材は令和6～7年度の仕様と同じ。面によって異なるのは寸法（横幅）と錺金具の個数のみ。
・ 最終年なので裏面の銘をどうするか話し合う必要がある。何を書くか、3 カ年事業をまとめて書くかなど。

○新調水引幕の天部錺金具と吊り板の製作

・ 天部錺金具は再利用する。地金が表出しているものがあるが、本事業では洗いのみ実施。
・ 再利用のために錺金具を脱着する際、背面の割足（各 4 箇所）が取れてしまった場合は鑞付けなどによって接着する必要がある。その際に鍍金に影響が出た場合の対処は要検討。
・ 原幕から錺金具を取り外す際には県有形民俗文化財の現状変更届が必要である。原幕と新調幕のどちらを（もしくはどちらも）指定文化財とするのかについては愛知県の方針は定まっていない。
・ 吊り板は、事業最終年度の終盤に新調幕 4 面を並べて採寸してから製作する。材はヒノキ製の素木平板、厚みは現幕の板と同じとする。

３．年度内の今後のスケジュール

・ 刺繍上がり検収：本日の監修会をもって刺繍上がり検収とする。
・ 完了検査@どんでん館：1 月中旬以降（納入期限は 3/15）。前面と後面の 2 面を並べて確認できる機会になるため、可能であれば藤井先生にもご出席いただく。

犬山祭　中本町西王母　水引幕復元新調　仕様書

原幕をもとに、現在の技術を駆使し、素材も含め可能な限り原品に近い復元を行う。
また、各工程においても万全な管理体制のもとに制作を行う。

水引幕「金地瑞雲麒麟文様刺繍幕」（左面）

表地(本紙)裂　総刺繍

① 技 法　地場:　本金(丸金糸)の折り返し駒詰め。
麒麟:　絹糸による唐縒り・撚り金糸の駒詰め。
部分的に紙縒り・ワタを用いた盛り上げ。
髭:　巻き立て刺繍。
瑞雲:　絹糸による唐縒りの駒縫い。

② 素 材　繍糸　正絹
本金糸
綴じ糸　正絹
目・牙　別紙「中本町水引幕(4枚分)金具復元新調仕様書」の通り
・黒目:銅(厚0.8mm)・黒漆焼付・割足付　12個
・白目:銅(厚0.8mm)・水銀箔鍍銀(中央穴有)　12個
・裏座:真鍮(厚0.8mm)　12個
・牙:洋白(厚0.7mm)・割足2箇所付　6個
・裏座:真鍮(厚0.8mm)　6個
金具保護の為、ベンゾトリアゾールをエタノールで
希釈して塗布する。

③ 色 数　19色(本金糸含)
④ 染 料　主として酸性染料 ・ 含金反応染料(堅牢染)

上辺部裂・覆輪裂(前後左右幕共通・下記の項目含)
黒羅紗　1.4㎜
上辺部・吊り板　白木平板(桧)
天部の錺金具　5個　原品再利用　(前後右面同様)
芯地　綿布
裏 裂　麻
仕立て　① 規格寸法　外寸　約　(H)　745　×(W)　2830　(　㎜　)
詳細は車山本体への取付状態等により調整予定

② 縫 製　縫製及び仕立ては原幕仕様に準じて、巡行に耐えられる
堅牢なる仕立てを行う。

寺内町車山「老松」

寺内町保存修理事業　修理概要

（1）　補助事業に係る文化財の概要

イ．名称等

名称	所在地	指定年月日	備考
犬山祭の車山行事 （寺内町）	犬山市内（寺内町）	H18.3.15.	寺内町老松車 （車輪の復元新調等）

ロ．過去における事業の内容とその実施年度（自費事業を含む）

文化 12 年（1815）　赤幕新調
文政 13 年（1830）　上山改修工事（三層の車山となる）
弘化 04 年（1847）　からくり人形製作
嘉永 07 年（1854）　車輪新調　←今回復元新調中の車輪
元治 01 年（1864）　水引幕新調
大正 05 年（1916）　中幕新調
昭和 11 年（1936）　赤幕新調
昭和 47 年（1975）　からくり人形修理 ＜県費補助事業＞
昭和 57 年（1982）　車山漆箔修理工事等 ＜県費補助事業＞
昭和 58 年（1983）　中幕新調
平成 05 年（1993）　夜山用中幕新調
平成 08 年（1996）　車輪修理　←今回復元新調中の車輪
平成 09 年（1997）　からくり人形修理 ＜県費補助事業＞
平成 13 年（2001）　芯棒・六本柱復元新調 ＜県費補助事業＞
平成 17 年（2005）　梶棒復元新調 ＜県費補助事業＞
平成 22 年（2010）　芯棒・大引・中大引復元新調 ＜国庫補助事業＞
平成 22·23 年（2010-11）　水引幕復元新調 ＜国庫補助事業＞

ハ．現在（修理前）の状況

寺内町の車山「老松」の車輪は嘉永 7 年（1854）に製作されたものであり、170 年以上にわたる使用によって真円形であった車輪が楕円形に変容している。特に左前輪では長径と短径の差が大きく、それが他の車輪との不調和をもたらして、押しても止まってしまう場合があるなど運行に支障を来たしている。楕円形の車輪ががたがたと揺れ、輪の内側が芯棒に接触するため芯棒包み金物を留めるビスの頭が取れている。外周の状態も極めて悪く、傍方向へは材を打ち足すことが可能であるが木口方向には足せないため、全体として円を相当小さくする以外に真円形の車輪に戻すことが不可能である。見付面にも割れが多数見られる。消耗を伴う足廻り部材としては、すでに耐用の限界を超えている。車輪は安全な運行の要であり、早期の復元新調を必要としている。

（2） 補助事業の内容

イ．概要

修理内容

・車輪一式の復元新調

・芯棒包み金物一式の修理調整

工期

令和７年４月～令和８年３月

請負業者及び契約金額

㈲八野大工　金 7,480,000 円（契約済）

ロ．工事事務

・犬山祭伝承保存委員会で了承された修理方針に基づき、犬山祭の車山行事（寺内町）修理委員会の監修のもと、適切に事業を実施する。

〔修理委員会の構成〕

寺内町代表者

鬼頭秀明氏（犬山祭伝承保存委員会）

岩田敏也氏（犬山祭伝承保存委員会）　※監修者

・国庫補助事業の特別会計を設け、帳簿を作成し、適切に予算を執行する。

・詳細な修理記録を作成する。

ハ．工事仕様

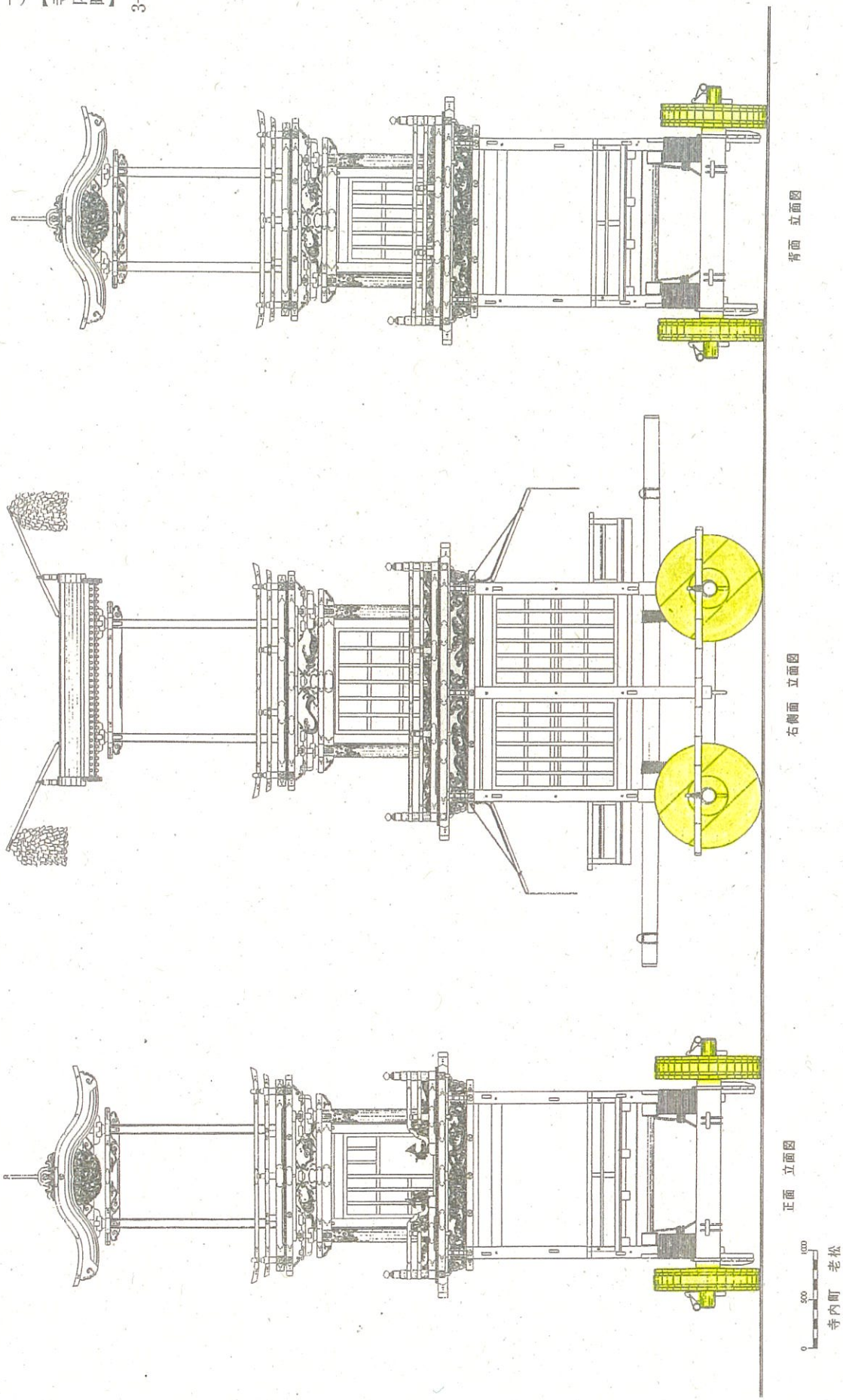
原則として現在の車輪の仕様（材料、寸法、構造、形式、工法等）を踏襲して新調する。

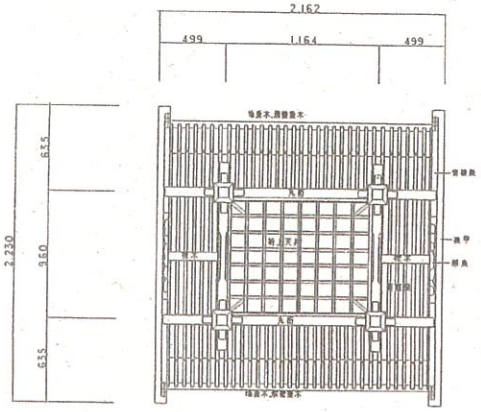
詳細は別添仕様案参照。

ニ．その他

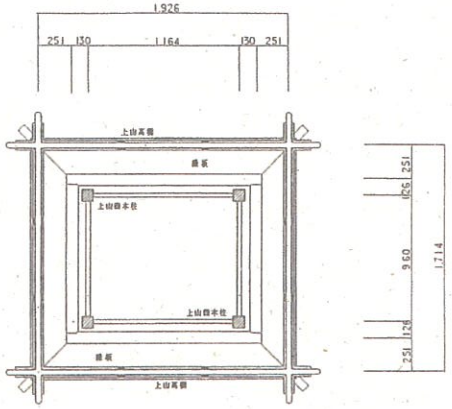
車輪の復元新調後、現在の車輪一式は保存する。

(十一)【寺内町】3—1

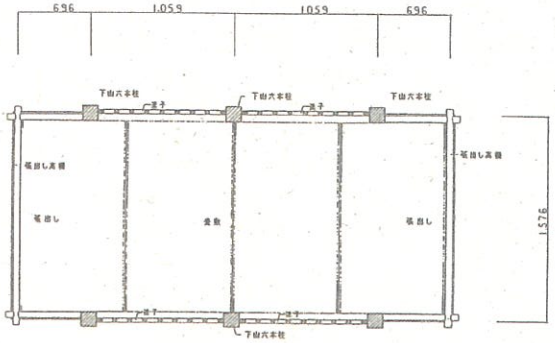




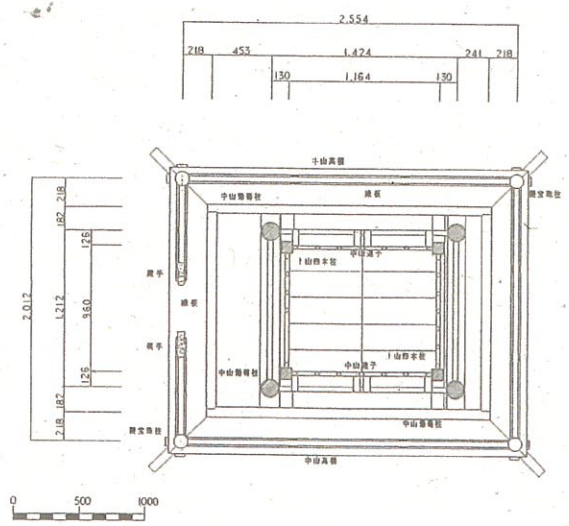
上山　天井伏図



上山　平面図

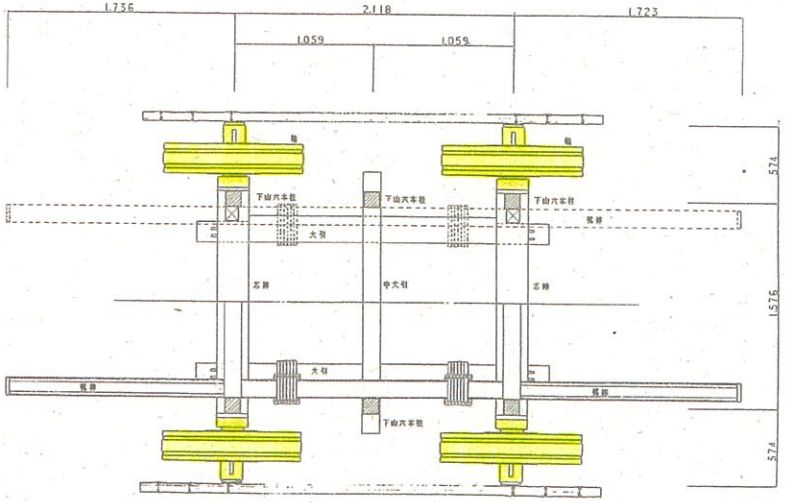


下山　平面図



寺内町　老松

中山　平面図



台車部　平面図

寺内町車山の車輪　現況（修理前）写真

寺内町車山の車輪（計４輪）

車輪が楕円形になっている（特に左前輪で顕著）
４輪とも長径と短径に差があり、運行に支障をきたしている（押しても止まってしまうことがある）

寺内町車山の車輪（計４輪）

外周の状態が非常に悪い

寺内町車山の車輪（計４輪）

外周の状態が非常に悪い

寺内町車山の車輪　現況（修理前）写真

寺内町車山の車輪（計４輪）

芯棒包み金物
　左：木口包金具
　右：筒金具

筒金具と木口包金具が接合されていないため芯棒が元折れしたときに鉄部の応力が不安である

寺内町車山の車輪（計４輪）

楕円形の車輪ががたがたと揺れ、輪の内側が芯棒に接触するため芯棒包み金物（筒金具）を留めるビスの頭が取れてくる

寺内町車山の車輪（計４輪）

芯棒包み金物（筒金具）を留めるビスの頭が取れている

寺内町車山の車輪　現況（修理前）写真

寺内町車山の車輪（計４輪）

見付面にも割れが目立つ

寺内町車山の車輪（計４輪）

見付面の接地付近部分の割損が多い

寺内町車山の車輪（計４輪）

見付面の接地付近部分の割損が多い

犬山祭　寺内町車山車輪復元新調工事仕様書

1．工事名称　寺内町車山車輪復元新調工事

2．工事場所　寺内町車山蔵、請負業者作業場等

3．工　　期　令和7年度

4．工事概要

寺内町車山は昭和57年度に全解体修理、平成22年度に芯棒の新調がされている。この時の事業に車輪修理は含まれていなかったが、これ以降経年による車輪直径寸法の不揃いや鉄輪の緩みが進行し、また部材にも割れや欠損があり、曳行に支障をきたす状況となっている。このことから車輪の新調を実施する。

5．破損状況等

①車輪

・車輪は直径3尺5寸～3尺4寸3分（1,060～1,039㎜）、厚み0.73尺（221mm）の中央、両脇の板材の積層による板車、外周に鉄輪を3本巻き付けてある。

・車輪、鉄輪の各部材の寸法は次のとおりである。※表示寸法は木部分

進行方向向かって左前：（長径）3尺5寸　　（短径）3尺4寸8分

左後：（長径）3尺4寸5分（短径）3尺4寸3分

右前：（長径）3尺4寸7分（短径）3尺4寸5分

右後：（長径）3尺4寸6分（短径）3尺4寸5分

鉄輪（中央）：幅90㎜、厚さ12㎜

鉄輪（両側）：幅32mm、厚さ9mm

・車輪の破損状況は各所に割れ、欠損が目視にて確認できる。また側面の接地付近部分の欠損が多い。

・鉄輪は中央、両側を繋ぎ材にて溶接固定されているが接合不良箇所が目視で確認することができる。

②芯棒筒金具

・筒金具と木口包金具が接合されておらず芯棒が元折れしたときに鉄部の応力が不安である。

・筒金具と木部の隙間があり、それにより筒が左右に回転しようと動くため鼻栓を損傷する状況になっている。

6．工事量

区　　分	摘　　要	員 数	備　　考
①着手準備	記録用写真撮影・実測調査等	1式	
②搬出・解体調査			
・車輪、芯棒の搬出	車輪1輪、芯棒2本の搬出	1式	
・車輪の解体	車輪の解体	1輪	
・施工図作成	工法・技法調査後の作成	1式	
③車輪工事			
・木工事	取り替え木材	1式	
	仕口、加工図作成	1式	
	木材加工、組立	1式	
・金具工事	鉄輪（中央）（両側）曲げ加工	4輪	1輪につき3本
	面取り加工	4輪	〃
	焼き嵌め	4輪	〃
	座板製作	4組	両面1組
・塗装工事	拭き漆塗り	4輪	
④芯棒筒金具			
・金具取り外し	筒金具、木口包金具	4本	
・金具固定	溶接にて固定	4本	
・取付け	隙間埋め、取付け調整	1式	
⑤搬入・取付け	車山蔵に車輪・芯棒の納入	1式	
⑥完了届	各工程及び完了写真を添付	1式	
⑦完了検査	請負人、寺内町修理委員会の立会	1式	

7．仕様書

1）一般共通事項

①総則

この仕様書は概要を示すもので、記載のない事項は寺内町修理委員会の指示に従い施工する。

②監修者

監修者は、非常勤で当該工事を監修する。このため工事請負者は、事前に仕様書及び工程などの打ち合わせをおこなう。

③施工基準

当該工事は、設計図書（仕様書、図面など）により、契約書を遵守し施工する。疑義が生じた場合は、直ちに報告し、監修者の指示により施工する。

④技術管理

主任技術者は、車山・曳山等修理工事の経験が豊富で、社寺建築の修理経験者または同等以上の技能を有するものとする。

⑤材料検収

納入材料は監修者の検査を受けて合格した材料のみを使用する。

⑥検査

施工途中の検査は、監修者の監修時に随時おこなう。また工事完了検査は、事前に必要な図書及び写真などを整え、寺内町修理委員会に提出のうえ、監修者の検査を受ける。

⑦記録写真

記録写真は、正確に日付調整したデジタルカメラを使用し、納入材料、工事施工中に随時撮影し、工事完了届に添付して寺内町修理委員会へ提出する。

⑧保険など

請負人は労働保険、その他法律で定められた事項の全ての手続きをおこない、適正な処置を講じる。

⑨資料などの発見及び保存

部材に墨書などを発見した場合は、速やかに監修者に報告する。

⑩その他

工事請負者は、車山及び車山蔵などを損傷しないように注意を払って施工する。万一損傷した場合は、速やかに工事請負者の負担で復旧する。また危険防止ならびに防火対策については、常に配慮し、適切な処置を講じる。

2）工事仕様

①搬出・解体調査

イ）概要

車山蔵からの搬出・施工業者作業所にて解体調査をおこなう。

ロ）搬出

調査対象の車輪1輪と、芯棒2本の搬出をおこなう。

ハ）解体

実測調査、写真撮影完了後、順序よく丁寧に取り外す。

車輪は鉄輪を切断し、中央・両側板の各部材に符号等にて位置記録をして、取り外し見え隠れ部分の工法、技法調査をおこない、新材加工の資料とする。

ニ）養生

取り外した部材は、破損、汚損が生じないように部材ごとに養生し、保管する。

②車輪工事

イ）概要

車輪4輪の新調をおこなう。

ロ）材料

新調材は国産材で、歪みや腐れ等の欠点のない良質材とする。伐採後数年間の乾燥期間を経た含水率20%以下の乾燥材とする。

車輪材　ケヤキ材、芯去材、無節、赤身

ハ）工法

新調する車輪は、原則として旧形、旧工法を踏襲する。

車輪は現状の車輪の解体調査に基づき、製作図を作成する。製作図完成後、寺内町修理委員会の検査を受け、合格したものに基づいて木取りをおこなう。現状の車輪に倣って製作加工し、従来どおり順次組み立てる。

ニ）鉄輪

中央　SS400　巾 100mm　厚さ 12mm　面取り　4本　焼き嵌め

両側　SS400　巾 32mm　高さ 41mm　厚さ 9mm　L型　面取り　8本　焼き嵌め

ホ）座板

座板（両面1組）　外側　真鍮　　直径 380mm　厚さ 3mm　皿ボルト固定

内側　ステンレス　直径 380mm　厚さ 3mm　皿ボルト固定

ヘ）塗装

塗装は拭き漆塗り（朱染め＋生漆（拭き漆））を3回おこなう。

③芯棒筒金具

イ）概要

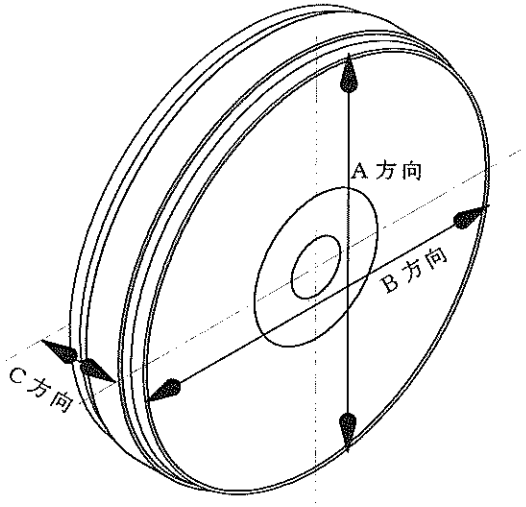
筒金具の修理、調整をおこなう。

ロ）工法

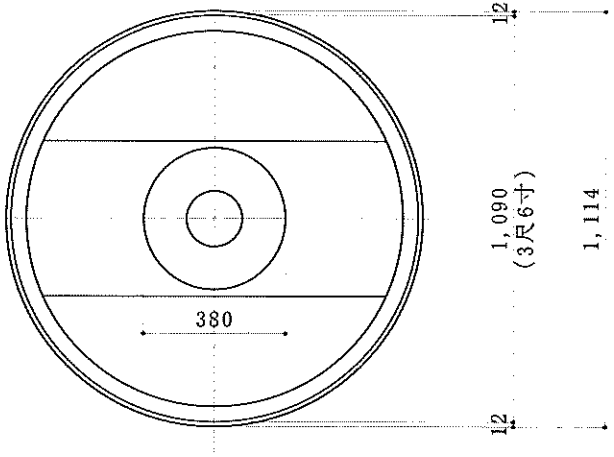
芯棒から筒金具、木口包金具を取り外して溶接固定をおこない、筒金具と木部の隙間を充填・埋木をしたのち取付けをおこなう。

車　輪

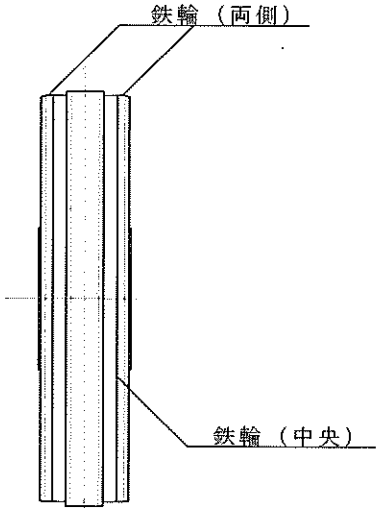
現況



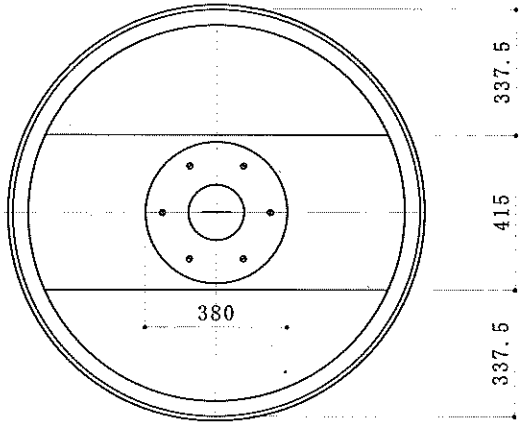
新調



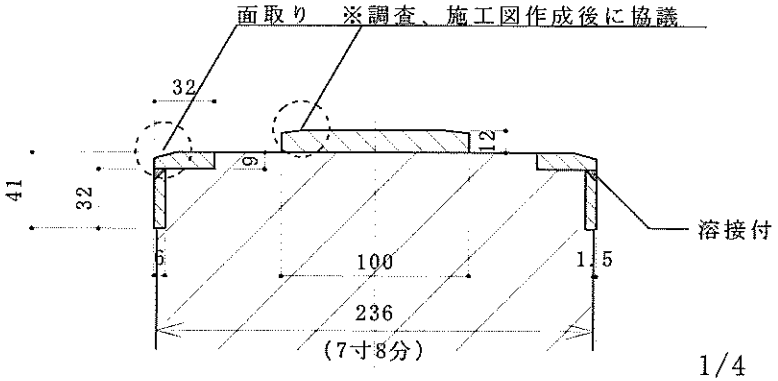
表



側面



裏



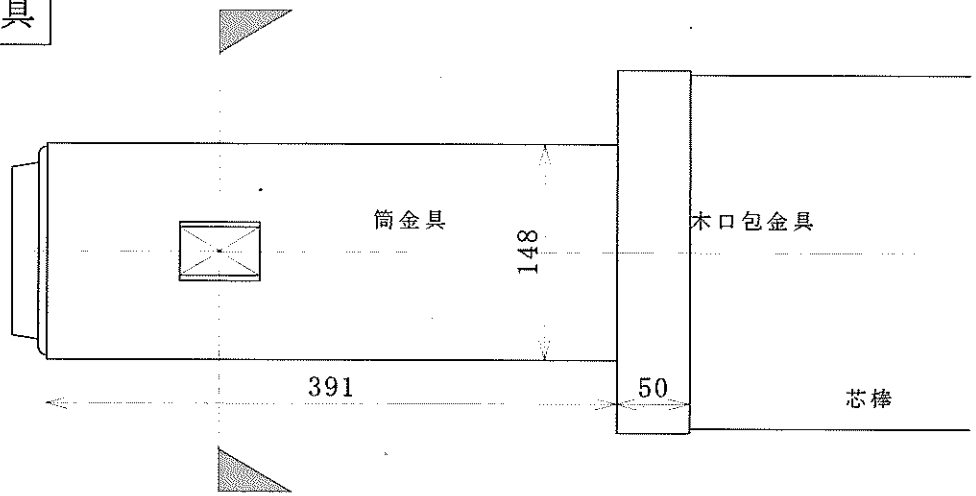
1/4

現況調査寸法

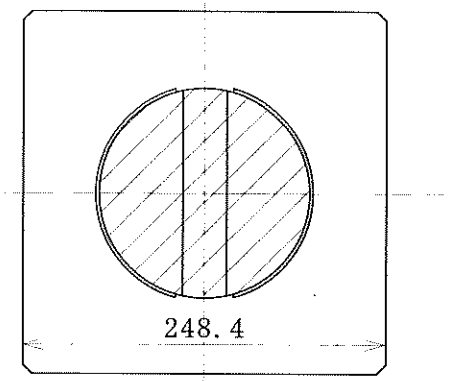
場　所	A方向	B方向	C方向
左前	3尺5寸	3尺4寸8分	7寸3分
右前	3尺4寸7分	3尺4寸5分	7寸3分
左後	3尺4寸5分	3尺4寸3分	7寸3分
右後	3尺4寸6分	3尺4寸5分	7寸3分

図　面　名	縮尺
犬山祭　寺内町車輪新調詳細図	1/20

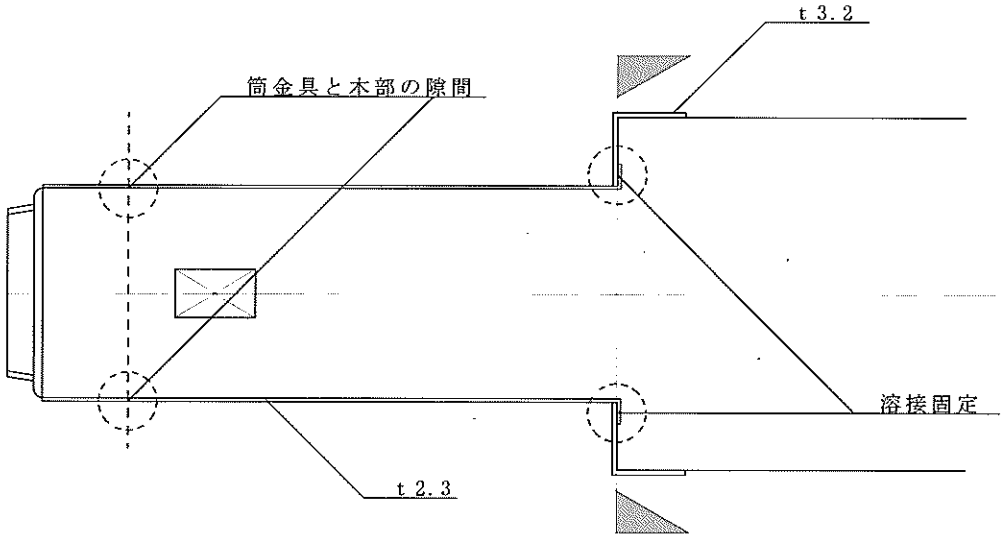
筒金具



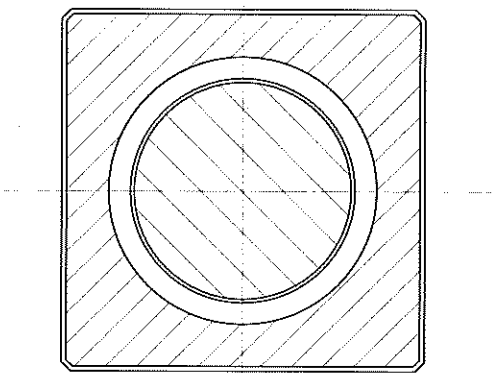
A断面



A断面



B断面



B断面

図　面　名	縮尺
犬山祭　寺内町芯棒筒金具詳細図	1/15

工程表（寺内町車輪等復元新調）

事　業　名	重無民　犬山祭の車山行事 民俗文化財伝承・活用等事業	期　間	（当該年度）交付決定後着手～令和8年3月31日完了 （全体計画）令和6年4月11日着手～令和9年3月31日完了

施　行 部　目	全事業に対する比	令和７年度											
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
調査	2 %												
木工事	51 %												
鍛冶工事	31 %												
塗装工事	7 %												
雑工事（解体組立運搬仮設等）	9 %												
施工事務													
	100 %												

犬山祭の車山行事（寺内町）修理委員会　議事録

日程：　令和7年5月27日（火）15:00～16:00
会場：　寺内町車山蔵
出席者：委員
　寺内町：三輪征宏氏（会長）、岩井信昭氏（副会長）、田島英一氏、山本和伸氏
　学識経験者：鬼頭秀明氏、岩田敏也氏
来賓
　前田俊一郎氏（文化庁）、波多野晶氏（愛知県）
請負業者
　八野泰明氏（㈲八野大工）
事務局（市教育委員会歴史まちづくり課）
　加藤憲夫、小川正広、市野恵子、輿石みゆき

1．あいさつ
・　寺内町代表　三輪征宏氏

2．委員会規則等の確認　資料1
・　委員会規則、報償及び旅費規程の案は各委員から承認された。
・　会長に三輪征宏氏、副会長に岩井信昭氏、会計に細江英明氏が選任された。

3．協議事項
(1) 修理方針　資料2
○概略説明（事務局）
・　車輪の現況
　・　ケヤキ材三枚接ぎの板車で製作年代は不明
　・　直近の修理は平成8年度実施（車山蔵に保管されている写真より）
　・　長年にわたる使用によって車輪が楕円形に変形し運行に支障をきたしている
　・　外周及び見付面の状態も悪い
・　修理方針
　・　車輪：復元新調（座板及び鉄輪の新調含む）
　・　芯棒包金物：筒金具と木口包金具の溶接、筒金具と木部の隙間埋め
○運行現場での問題点（会長）
・　車輪が楕円形になっているため、重心が中心に来ていない。その影響で運行時の車輪回転に抵抗があり、がたつきもある。
・　自分が運行に携わるようになってからずっとこの状態である。長期にわたる運行上の支障を解消したい。
○修理方針説明（岩田委員）
・　（前回の修理時の解体写真から）現車輪は、板材の内側に8箇所のほぞ穴があり、そこへダボを差し込んで接合している。復元新調は同じ工法で施工する。

・ 車輪接地面両端の鉄輪は、方向転換時に木部が傷むのを防ぐために今回L型の形状に変える。現在の道路は舗装されていて昔に比べて硬いため鉄輪による補強が必要になっている。
・ 祭礼時に確認したが、車輪は他の祭りではあまり見ない揺れ方をする。今回の新調で車輪の厚みや直径を若干増やすことによる運行への支障はおそらくないと思われるが、動かしてみて不具合があればその都度調整しながら使っていくことになる。
・ 車輪の製作は、現車輪1輪の解体調査によって元の寸法を推測してから進める。

○質疑等

・ 現況について
  ・ 楕円形になっているのは4輪ともか（文化庁）。
    →程度に差はあるが4輪ともである（会長）。
  ・ 実際の運行時にはかなり揺れるのか（文化庁）。
    →揺れるというより動きにくい。4輪をローテーションさせても、どの配置でも曳きにくい。グリスも乾きやすい（会長）。
  ・ 両端の鉄輪をL型に変更する仕様だが、現状も若干面取りされている（文化庁）。
    →L型ではないが、見付面側が若干面取りされた形状ではある（岩田委員）。
  ・ 車輪の材質はかなり良いもののようだ（文化庁）。
    →材はかなり古く、200年近く経過している可能性もある。町内で必ず保管を（岩田委員）。
  ・ 寺内町の車輪は他町と比較して薄いのか（愛知県）。
    →直径も厚みも13町で最小である（事務局）。
    →そのため少し大きくする計画ということか（愛知県）。
    →若干（外寸で＋29mm、厚みで＋15mm）である（事務局）。
・ 解体調査について
  ・ 解体によって新たな発見があるかもしれない（文化庁）。
    →墨書が残されている可能性などもある（鬼頭委員・岩田委員）。
    →当初の寸法も含め確認する（会長）。
    →事務局の方でも目配りをして確実に記録を残してほしい（文化庁）。
・ 工程について
  ・ 工程表どおり実施できる見込みである（㈲八野大工）。
    車輪の解体調査→木材の加工→（年末）鉄輪の焼き嵌め→（2月末）工事完了→（3月）納品
  ・ 車山組みは車輪及び芯棒の納品後となる。仮に芯棒だけ早く納品してもらったとしても蔵の中で車山を組むことは難しい。納品と試し曳きは別日となる（会長）。

(2) スケジュール 資料3

・ 車輪（×1（解体調査用））と芯棒（×2）の引渡し：6月8日（日）15時
・ 以後の岩田委員による監修（経過確認）：適宜日程調整のうえ実施
  ・ 車輪解体状況確認と材料検収は同日実施可能
  ・ 寺内町は輪締の作業現場への立会を希望（材料検収は日程的に可能であれば立ち会う）
・ 契約上の納入期限：3月8日
・ 納品後（後日）：車山組みと試し曳き（＋必要に応じて再調整）

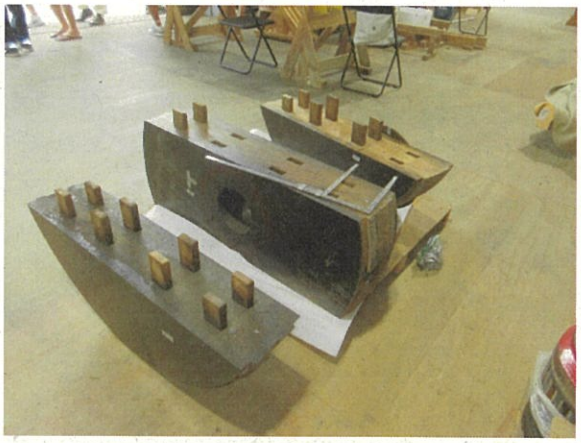
※配布資料の訂正：資料2（p.11の8行目）「両側（中略）12本　焼き嵌め」は「両側（中略）8本　焼き嵌め」の誤り

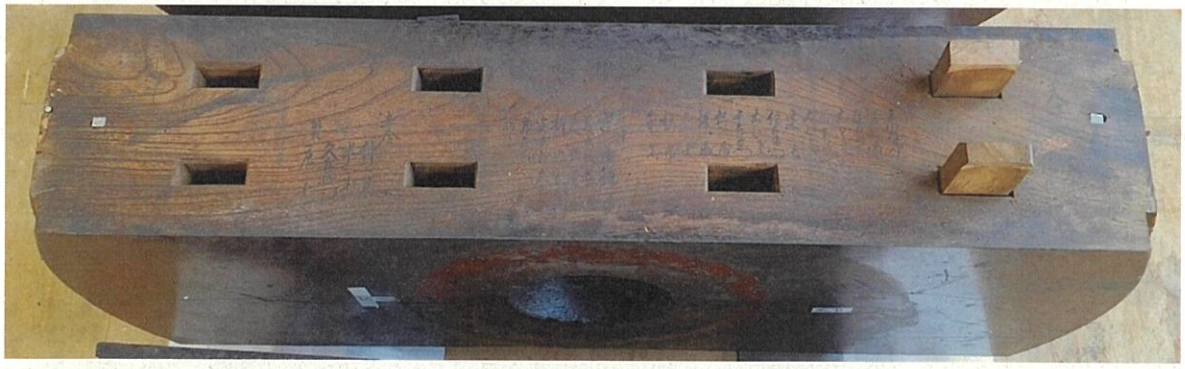
寺内町修理委員会（監修会）記録

日程：　令和７年８月３日（日）13:30～15:30
会場：　㈲八野大工工場
出席者：委員
　寺内町：三輪征宏氏（会長）、田島英一氏、薫田尚宏氏、山本和伸氏、小竹博之氏
　　棚木翼氏、日比野元紀氏、澁谷惇氏
　学識経験者：岩田敏也氏（監修者）
　請負業者
　八野泰明氏（㈲八野大工）
　事務局（市教育委員会歴史まちづくり課）
　市野恵子

１．現車輪（１輪）の解体状況確認

・３枚の部材の計４面の接合面のうち２面に墨書を確認した。１面は車輪製作時の墨書であり、もう１面は修理時のものである。製作時の墨書に「嘉永七年／寅八月／大工　・・・」とあり、現車輪の製作年（嘉永７年＝1854年）が判明した。令和７年現在で171年経過している。ほかに雇いほぞにもマジック書きの符号（「は七」等）が見られた。





・　解体調査による当初の車輪寸法の推定はできなかった。
　→製作は現在の計画寸法で進める。

2．材料検収

・　検査結果
　・　車輪（中）ケヤキ材　4輪分（4丁）　　→合格
　・　車輪（両脇）ケヤキ材　4輪分（8丁）　→合格
・　ケヤキ材
　・　厚み：7寸8分（295㎜）
　・　表面の含水率：16%
　・　部分的に亀裂あり　→雇いほぞが2列で亀裂を跨ぐため問題なし
・　雇いほぞの材：樫（今回検査外）

3．車輪製作について

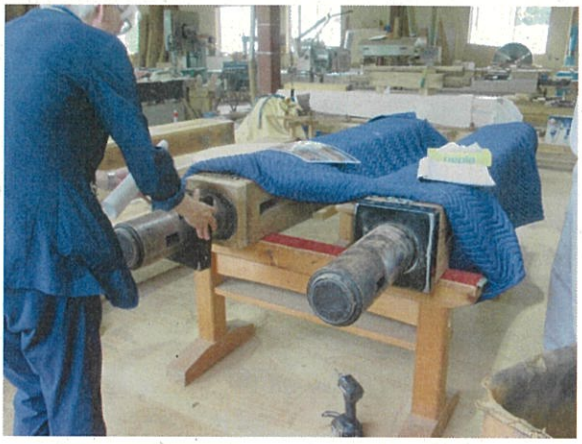
・　車輪の接合：雇いほぞと輪締めだけによる接合で十分か？（千切りは不要か？）
　・　千切りは部材に割れが生じたときに入れることが多く、意匠的に装飾として用いることもあるが、今回特に必要と判断する材料はない。
　・　千切りは輪締め前に入れると輪締めによって周囲に隙間が生じるため輪締め後に埋め込む。今回は両端の鉄輪もL型になるため不要と思われる。
　→千切りは入れずに施工する。
・　新調車輪の墨書銘
　・　車輪接合面に新調年月、大工名、寺内町人名などを墨書きする。
　・　下書き用に接合面の原寸図を㈲八野大工から提供してもらう。
・　現車輪の保存：墨書部分を薄くスライスして展示保管することは可能か？
　・　車輪であることに価値がある。全体を保存するのが望ましい。このまま残す努力を。
　→加工せずに現状保存する。
・　図面
　・　今回の復元新調による変更点を記録として残すため、現況図と竣工図の両方が必要。

4．芯棒筒金具について

・　芯棒2本のそれぞれ片側の筒金具と木口包金具を取り外した状態を確認。木部にグリス染みや腐

朽などは見られず健全であった。

→今後、筒金具と木口包金具の溶接固定と、筒金具と木部の隙間の埋木を行う。



5．唐草彫刻の修理について

・ 今年度事業への唐草彫刻修理の追加希望を国と県へ打診中。8 月中に回答（承認可否の内示）を得られる見込み。

・ 承認の内示を得た場合、計画変更承認申請を経て 11 月から着手可能となる。年度末までの修理完了は工程的に無理がないか？

→問題ない。

・ 工程の概略

木地修復→金箔除去→下地調整→箔下漆塗り→金箔押し

6．次回監修会について

・ 問題なく進んだ場合、次回の監修会は鉄輪の焼き嵌めのタイミングで実施。時期は年末ごろの予定。

嘉永七年
寅八月
大工　□□□　□□
　　□□□　□□

當番
庄九郎
藤九郎
孫左衛門
□くめ
留兵衛
おむめ
定七
住右衛門
おひさ
重左衛門
兵蔵
□蔵
半七
□蔵
幸□

連中
宮蔵　孫□
茂兵衛　兵蔵
藤蔵　□□
柳八　□□
安兵衛　□□
市左衛門
〆拾壱人

立合
仲蔵
半七
久左衛門
組頭
庄七

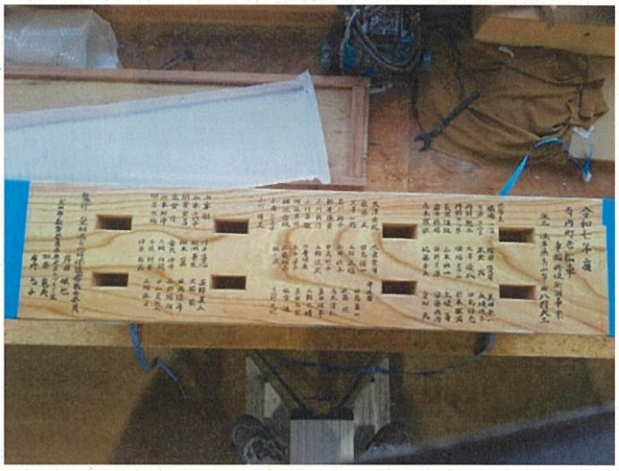
寺内町
町代
□□衛門

寺内町車輪新調事業　進捗状況（～R7/12/17）

01_木取り

02_位置振分け

03_ダボ穴加工



04_墨書き入れ

05_外周加工

寺内町修理委員会（監修会）記録

日程：　令和８年１月17日（土）13:30～15:45
会場：　㈲八野大工工場
出席者：委員
　寺内町：三輪征宏氏（会長）、田島英一氏、薫田尚宏氏、山本和伸氏、小竹博之氏
　　棚木翼氏、澁谷惇氏、川口昌徳氏、佐藤瑞氏
　学識経験者：岩田敏也氏（監修者）
　請負業者
　八野泰明氏（㈲八野大工）
　事務局（市教育委員会歴史まちづくり課）
　加藤憲夫、市野恵子

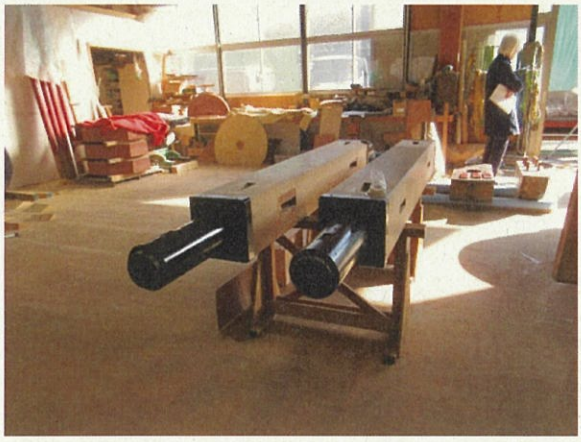
１．車輪製作進捗確認

・前回の監修会以降、計画工程に沿って、木取り、位置振分け、ダボ穴加工、墨書き入れ、外周加工まで終わり、焼き嵌めができる状態になっている。
・鉄輪の曲げ加工も終わり、中央の鉄輪はＲ面取りまで完了している。両端のＬ型の鉄輪は現車輪の両端の鉄輪と同じ形状のＣ面取りとする。
・車輪の軸穴径は中央から外側へ向かって若干大きくなっている（現車輪同様）。
・寺内町の車輪は、軸穴の内側に釜金物がないため使用するうちに少しつぶれることを考慮して、新調車輪の軸穴径を現車輪よりも若干小さくした。運行の様子を見たうえで、必要に応じて削るなどの調整は可能。
・寺内町は車輪の配置を固定せずにローテーションさせている。取扱い上番付があったほうがいいので、輪の内側（座板の側）に「一」「二」「三」「寺」と小さく彫る。墨書を収めた輪を「寺」とする。
・座板は、サビ防止のために内側をステンレス製、外側を真鍮製とする。いずれも直径380㎜、開孔径166㎜、厚さ3㎜とし、車輪へ埋め込まずにビス留めする。ステンレスの座板にはステンレスのビス、真鍮の座板には真鍮のビスを用いる。ビスは脚の長さ約25㎜のものを予定。

２．芯棒筒金具修理進捗確認

・筒金具と木口包金具の溶接固定、筒金具と木部の隙間の埋木、取付まで完了している。

・　木製の原寸軸穴模型で車輪⇔車軸間のスペース、車輪の最大振幅、車輪と鼻栓との干渉・取り合いの確認を行った。

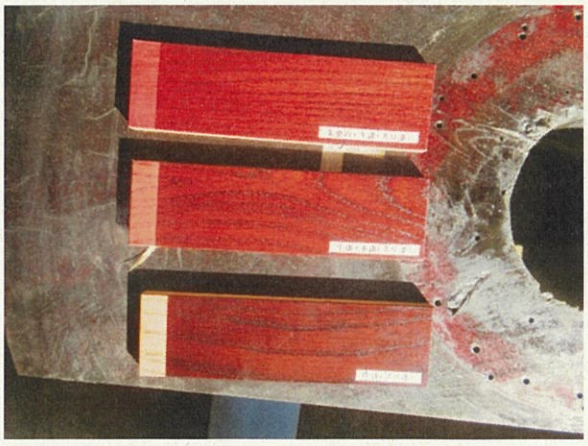
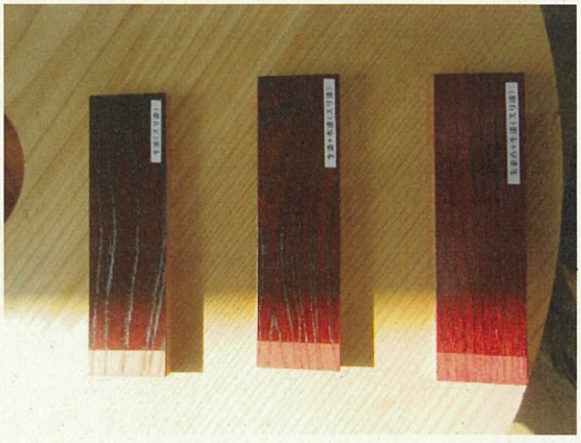


3．車輪見付面の塗装（色）検討

・　サンプルの手板３種（①「朱染め＋生漆（摺り漆）」②「生漆＋本漆（摺り漆）」③「生漆（摺り漆）」）の中から「朱染め＋生漆（摺り漆）」に決定。摺り漆仕上げは指紋などが付きにくいとのこと。

・　木口（踏面）及び軸穴内側も木部保護のために塗装（漆塗り）する。

・　漆塗りした見付面を町内でメンテナンスできるか？
→汚れなどを拭き取ることはできるが漆塗りはできない。絞ったタオルで拭き上げる程度がよい。現車輪が黒いのは油の付いた布などで拭いたからだと思われる。

4．車輪の鉄輪の焼き嵌め立会

・ 4輪の鉄輪（中央の鉄輪各1条のみ）の焼き嵌め　→（両端の鉄輪の焼き嵌めを残し）無事完了
今後、ずれ止めの釘を中央の鉄輪に8本ずつ打ち込む。

・ 車輪1輪の重さは、鉄輪なしの状態で168kg、中央の鉄輪1条を焼き嵌めた時点で196.5kg（中央の鉄輪1条の重さは28.5kg）であった。両端の鉄輪の設置後にはさらに重くなる。

5．今後のスケジュール

① 芯棒の納品：2月7日（土）10:00～　@寺内町車山蔵
※調査のために解体した現車輪1輪は組み戻し、中央の鉄輪を溶接づけした状態で戻してもらう。
芯棒の納品後、車輪以外の部分の車山組みを行う。

② 車輪の納品：今後調整（納入期限は3月8日）

③ 試し曳き：　今後調整（②と同日に実施できないか）

④ 完了検査：　今後調整（②か③のいずれかの日に実施）

名栗町車山「縫英」

名栗町水引幕調査・復元新調検討会　記録

日程：　令和7年12月18日（木）13:30～17:30
会場：　名栗町公民館
出席者：犬山祭伝承保存委員会
　　藤井健三委員（調査者）
　　名栗町
　　藤吉康弘氏、加藤美明氏、森博一氏
　　市教育委員会歴史まちづくり課
　　市野恵子

1．復元新調に関する基本方針・スケジュール等

・ 現幕の詳細調査に基づいて製作仕様を作成し、現幕製作当初の姿を復元する。
・ 所有者であり取り扱い者である町内の意向（特に現状を変更する意向）は、犬山祭伝承保存委員会で文化財の保存修理として承認される範囲内で製作に反映される。
・ 順調にいけばR9年度からの事業になるが、他町で車山本体の緊急修理が発生した場合、保存会内の申し合わせにより車山本体の緊急修理を優先させることになる。

2．復元新調に関する名栗町の意向等

・ 復元新調事業の対象：水引幕4面と飾り房4本
・ 町内会から本事業に支出できる予算の範囲で計画を固めたい。
・ 町内としては、かなり痩せているように見える現幕に比べてボリューム感のある仕上がりを期待している。

3．調査結果

➢ 詳細別紙（藤井委員調査報告書・寸法図）

・ 現幕の仕様からすると4面の復元新調に必要な工期は2年（R9～R10年度）と考えられる。
・ 水引幕収納箱の蓋裏の墨書と現幕の仕様から現幕の製作時期は明治8年と見てよい。当初の幕から刺繍部を切り取って現幕に仕立てた時期は昭和時代とのことだが明確な時期は不明。
・ 現幕は糸の撚りが固く刺繍の技法にも優れた良い品である。
・ 現幕には姫糊（澱粉性のものを水に溶いて煮た糊）で金糸などを基布に貼る技法が用いられているが、新調幕は堅牢性確保のために糊で貼るのではなく綴じ糸で留める。
・ 現幕の刺繍には4種類の金糸が用いられているが、現在は生産される金糸の種類が少ないので綴じ糸の色の違いで金糸の色味の差を出す。
・ 額縁上辺には錺金具（前後面各5個・左右面各6個）が付けられている。各面両端の錺金具には懸装用に横長の穴が開いている。各金具には幕裏に座板が付き、ほとんどの座板にL型の穴が開いている。両端の金具を除き、現幕においてはL型の穴には実用途がない。
・ 前後幕に後付けされている2枚重ねのビニールシートは用途が不明。復元新調に含めることはできない。
・ 現在は水引幕収納箱の中に幕を吊って保管しているが、新調幕はできれば水平な状態で保管したほうがよい。幕と幕の間に薄い布団を挟むことによって刺繍がつぶれることを防ぐことができる。

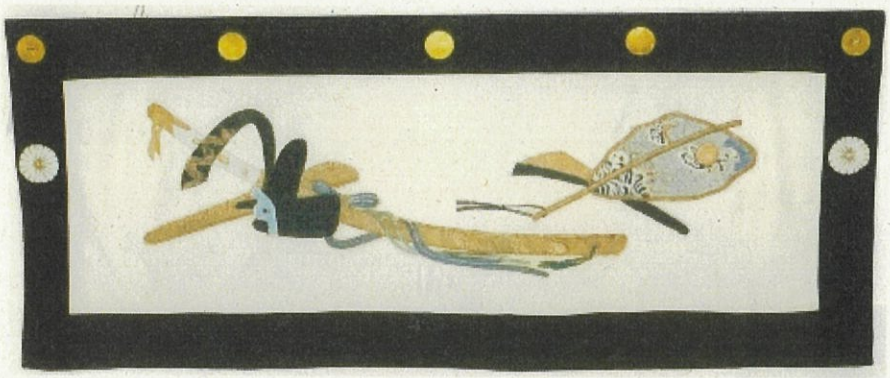
4．今後の確認・検討事項

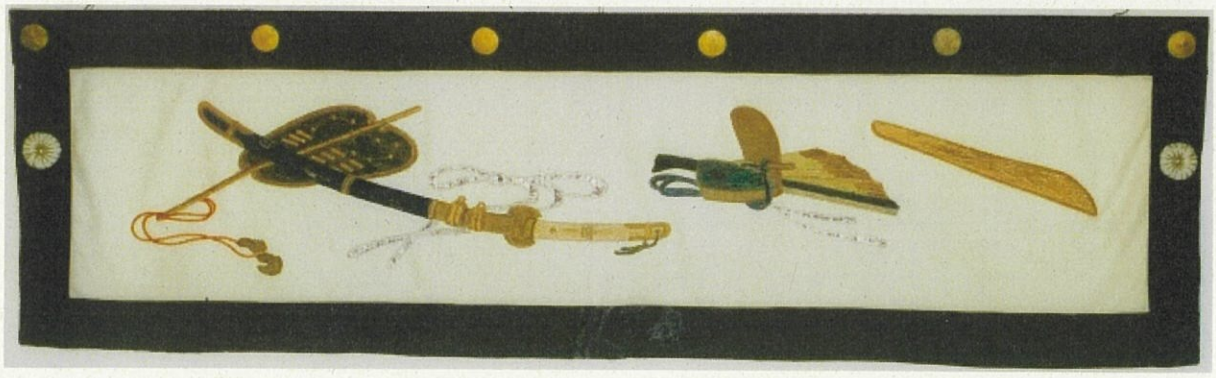
・ 町内の予算額

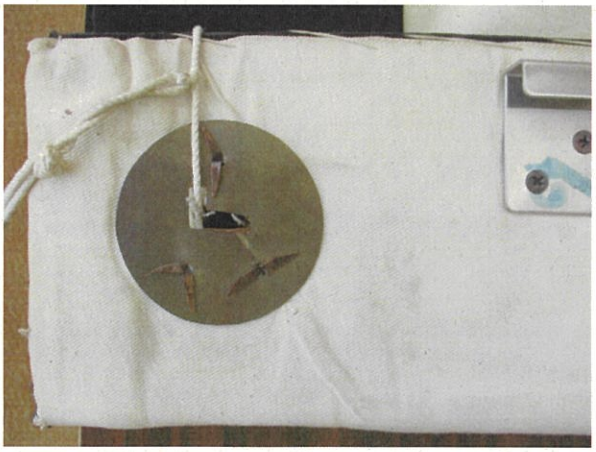
・ 錺金具一式を再用するか新調するか

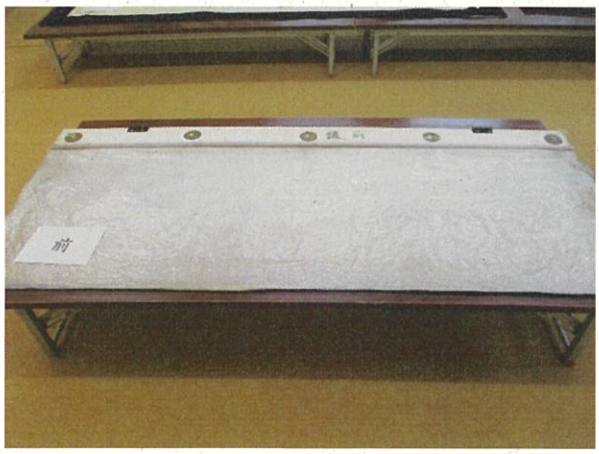
・ 幕の懸装方法

※現在は両端（各幕 2 箇所）の錺金具と吊り板の穴に通した紐を車山本体側の折釘に掛けて幕を吊っているが、紐を用いるのは当初の方法ではないと考えられること、左右の幕は掛ける箇所を 1 箇所追加したほうがより安定感が得られることなどを考慮して新調幕の懸装方法を決定する必要がある。ただし左右の幕は上辺の錺金具が 6 個で水平方向の中央には配置されていないため幕裏で対応する方法などを検討する必要あり。→車山本体の状況を確認のうえ検討する。









■犬山祭・名栗町『絳英』水引幕、復元新調に向けての調査報告（概要）。

提出；２０２６年（令和８年）１月１３日（火）。

●調査の概要。

・調査の対照　…犬山祭名栗町『絳英』の現用「水引幕」４面。

・調査の目的　…現用幕の経年による消耗に従い、復元新調を基本とした新幕の調製。

・調査の日時　…２０２５年（令和７年）１２月１８日（木）。

・調査の場所　…名栗町公民館（犬山市大字犬山字南古券１３番地）。

・調査の担当　…犬山祭伝承保存委員会　委員　藤井健三。

●修理事業の対照とする幕について（概要）。

・名栗町「絳英」の下山軒下に前面・左面・右面・後面の四方に別れて懸装される現用水引幕の４枚がある。この４枚の水引幕の製作年は不明だが、幕の図は朝廷の官吏が儀礼の際して身に着ける「冠、笏、太刀、中啓、軍扇」で、それらに見る種類をうまく組み合わせて４面の幕の図柄に構成して作られている。水引幕は本来は一枚物の布を山車に周回させて懸ける幕で、それを扱い易さと豪華に装うべく対応させて四方に分けて懸ける幕として作られるようになったと思われる。その意を受けてか本幕も４枚一組の幕として製作され、山車に合わせて前後と左右面の幕長が異なるも４枚共に図柄と仕様を４枚で一体と成る可く考慮が窺える幕である。幕は上下左右の四片の縁部分を黒色羅紗で囲った額縁仕様に作り、額縁内は白色羅紗裂を用いてそこに先述の朝廷の官吏が身に着ける用具を図柄として著して刺繍をしている。

・ところで現在の幕を少し離れた位置から見る限りではよく形の整った幕に見え、近寄ってみると黒色の額縁と幕の鏡部の白色羅紗に褪色や汚れがあるものの、幕の形も崩れていなくてよく保たれている。しかしさらに近づいて刺繍部分を注視すると、各面に施された刺繍の図柄は明瞭さに劣っていて刺繍は全体が経年による損傷や汚れなど劣化が著しく窺える。褪色や刺繍の綴じ糸切れに剥離、そして破れや欠失部など多くの難が有り、そしてそれらを修繕した形跡が確認できる。それに加えて白色羅紗裂へ直に刺繍して作られているはずが、図柄の全てに約５mm程の巾で幕の白色羅紗とは異なる別の白色羅紗裂があるのが見られ、刺繍をした旧い裂地を新しい白色羅紗裂幕面に乗せて貼付されているのが解る。つまり本幕は損傷が顕著になって使用に絶え難くなった時の幕の修復方法として、刺繍の損傷部分を先ず綴じ糸で押さえ直して修理を行い、その後に図柄に添って旧幕面の裂と共に切り抜き、新しく白色羅紗の上に置いて接着および切り付け縫い（アップリケ）をして新幕に仕立てて復元をしたものなのを理解できる。このように現用の幕は刺繍の部分に大きく問題を抱かえながらも暫時の幕の修理をして今まで活用されてきたのがいえる。一般的には暫定的な修理として行われる方法ではあるが、幕面と刺繍の部分に格差がある修理方法だといえる。しかし修理をした刺繍部分を新しい幕面に置いても見た目は堪えられない状態でなく、立派に図様として役割を果たしているかに見えるのには驚かされる。つまり当初に製作された刺繍作品が如何に卓越した技術で作られたものだったかを語っており、かなりの損傷を見るに至っている作品であるのに拘らず、やや雑な修理対処で成し得たことに驚かされる。最初の幕製作がよほどに高い刺繍技術だったことが考えられ、それは幕の収納箱の記載からも理

解できよう。
・水引幕を収納する箱の蓋裏に「記／明治八年　亥旧八月／組長　土岐清七／警固（人名略）／上山係（同）／下山係（同）／当番（同）／水引買上并縫記／白羅紗　名古屋　大丸屋／黒羅紗同所　伊藤軒／下絵　当初　堀野氏／縫師名古屋　松阪屋／錺師　当初中切　錺屋／仕立て師同所三文字屋／（下略）」、身の横に「水引箱」、他方の身横に　「明治八年　亥八年吉日」とあり、最初の幕の製作は明治８年であり、既に１５０年を経過して幕は修理当時において相当に経年劣化等によって損傷していたことが知れる。現今の幕面の黒羅紗の額縁と白羅紗の幕鏡部の状態の良いこと、そして刺繍部分の図柄の傷みが大きいことの見掛けの違いから修理は近年なのがいえよう。その修理時期については町に聞き取りをするも残念ながら不明。
・名栗町が所有する現用赤幕の前面も、昭和９年に製作された旧幕から町名文字の刺繍部分を切り抜いて新しい緋羅紗地の上に切り付け刺繍をして修理されており、そうした仕事の幕がある例からして４枚の水引幕も同時期に加工かされたとも考えられるが、その辺りについての資料はなく不明。水引幕の錺り金具、刺繍幕の太刀の鞘、扇子の図柄に梅花を多く使って表現をしているのが知れる。「絳英」の上山に載る菅原道真の人形に関わって梅花模様が多く用いられていると聞く。

●調査から見た幕の概要。
◆前面水引幕について。
・大概に水引幕の修理技法と技術については前の通りだが、前面の幕は「磯高立纓（いそだかりゅうえい）の冠、毛抜透しの太刀、中啓（ちゅうけい）、笏（しゃく）、軍扇（ぐんせん）」の図柄が低い盛り上げをした繍技で行われ、多種の糸遣いと多様な繍技を併用して日本画風の絵画表現を精緻な繍技で著している。ただ刺繍の損傷度合いからして修理を経た現状と雖も過去の良好な刺繍技術の再現は難しい。幕面の四辺縁に作った黒羅紗の額縁上辺５か所に低い円柱形の錺り金具を付け、金具の表面に梅花文様と魚子の鏨彫りをして箔鍍金加工をしている。また額縁の左右辺には白色厚手の絹地に綿を高く包んで菊座を縫い着け、紐穴を設けて隣り合う幕を繋いで房飾りを垂れる。
○前面幕の概形と寸法（概寸）。
・形状…横長の方形。
　外寸（額縁外寸法）…縦：　758～760mm×　横：　1833～1860mm。
　内寸（額縁内寸法）…縦：　506～510mm×　横：　1603～1632mm。
　（詳細は添付図を参照）。
＊ただし製作の前に再度の採寸と山車側の懸装仕様についての確認と検討が必要。
○幕表面額縁
・平織黒色羅紗　　…平組織毛織物（起毛処理加工）　織密度、生地厚の計測不可。
○幕表面鏡部（刺繍基布）
・平織白色羅紗　　…平組織毛織物（起毛処理加工）　織密度、生地厚の計測不可。
○幕裏面生地
・綾織白色木綿布　…１０番綾織木綿布（品名；葛城）。
○刺繍加工

・「磯高立纓の冠」、「毛抜透しの太刀」、「中啓」、「笏」、「軍扇」の図柄は共に白羅紗生地に下絵を貼り、紙撚りを止めて和紙また綿を薄く肉入れし、そこに色と太さで選んだ丸金糸および銀糸を片駒か両駒遣いで地引繍いをして綴じ無し、綴じ糸繍いをする。また色糸は原糸の選択から合糸、撚りの強弱や太細、諸撚りまた唐撚り糸を主に用い、纏い繍いやチャラ繍い、網掛け繍い、渡し繍い、組紐繍いなどの繍技を加えて技術を尽くして細部に至るまで技巧を尽くしている。実に多種多様な繍技を尽くして製作をしている。さらに美しく糸が揃って繍われている様子は他に類を見ない。ただしこうした技術を殆ど見る影もなく損傷してしまっており、加えて修理で大きく変容してしまっている。

＊技法の詳細については多種多様のため、個々の部所についての記述を省くが、実際の製作時には本歌の刺繍を緻密に探って繍技を選定して指示をする必要があるだろう。

○房飾り用菊形座。

・平地変り地絹織物（地縛（じぬき）に太細糸を交替に用いた織物）を使って高く綿で肉入れをして円座を作り、それに丸金糸両駒遣いの綴じ繍いをして花弁の筋を表現する。

○懸装錺金具。

・円柱型。金具上面に梅花と魚子紋の彫金を施す。金色の剥がれ状況から見て、着彩は金箔の箔鍍金技法が推される。裏面座金は銅素地の円形薄板。

◆左面の幕について。

・幕の製作仕様は前面水引幕と全く同じだが、刺繍の図柄は「磯高結び纓冠（いそだかえいかん）」「長覆輪（ながふくりん）兵具飾の太刀（野太刀、兵杖（ひょうじょう）の太刀）」、「梅絵の扇子」、「笏」、「軍扇」の図を低く盛り上げをした繍技で、多種の糸遣いに多様な繍技を併用して精緻で絵画的表現をしている。現状の幕の経緯は前面幕に同じ。

○幕の概形と寸法

・形状…横長の方形。

外寸（額縁外寸法）…縦：　760～769mm×　横：　2625～2644mm。

内寸（額縁内寸法）…縦：　511～517mm×　横：　2376～2406mm。

（詳細は添付図を参照）。

＊ただし製作の前に再度の採寸と山車側の懸装仕様についての確認と検討が必要。

○幕表面額縁裂

・平織黒色羅紗　　…平組織毛織物（起毛処理加工）、生地厚の計測不可。

○幕表面鏡部裂（刺繍基布）

・平織白色羅紗　　…平組織毛織物（起毛処理加工）、生地厚の計測不可。

○幕裏面裂

・綾織白色木綿布　…１０番綾織木綿布（品名；葛城）。

○刺繍加工

・前面幕の記述に同じ。

○房飾り用菊形座

・前面幕の仕様に同じ。

○懸装錺金具

・前面幕の仕様に同じ。

◆右面の幕について。

・幕の製作仕様は他の水引幕と全く同じだが、刺繍の図柄は「磯高垂纓の冠」「儀杖の飾太刀」、「扇子」、「笏」、「軍扇」の図を低く盛り上げした繍技で、多種の糸遣いと多様な繍技を併用して精緻で絵画的な表現をしている。現状の幕の経緯は前面幕に同じ。

○幕の概形と寸法

・形状…横長の方形。

外寸（額縁外寸法）…縦：　763～767mm×　横：　2645～2662mm。

内寸（額縁内寸法）…縦：　520～521mm×　横：　2405～2422mm。

（詳細は添付図を参照）。

＊ただし製作の前に再度の採寸と山車側の懸装仕様についての確認と検討が必要。

○幕表面額縁

・平織黒色羅紗　　…平組織毛織物（起毛処理加工）、生地厚の計測不可。

○幕表面鏡部（刺繍基布）

・平織白色羅紗　　…平組織毛織物（起毛処理加工）、生地厚の計測不可。

○幕裏面生地

・綾織白色木綿布　…１０番綾織木綿布（品名；葛城）。

○刺繍加工。

・前面幕の記述に同じ。

○房飾り用菊形座。

・前面幕の仕様に同じ。

○懸装錺金具。

・前面幕の仕様に同じ。

◆後面の幕について。

・幕の製作仕様は他の水引幕と全く同じだが、刺繍の図柄は「磯高巻纓の冠」、「中啓」、「笏」、「儀杖の飾太刀」、「軍扇」の図を低く盛り上げした繍技で、多種の糸遣いと多様な繍技を併用して精緻で絵画的な刺繍表現をしている。現状の幕の経緯は前面幕に同じ。

○幕の概形と寸法

・形状…横長の方形。

外寸（額縁外寸法）…縦：　750～763mm×　横：　1780～1855mm。

内寸（額縁内寸法）…縦：　512～513mm×　横：　1553～1626mm。

（詳細は添付図を参照）。

＊ただし製作の前に再度の採寸と山車側の懸装仕様についての確認と検討が必要。

○幕表面額縁

・平織黒色羅紗　　…平組織毛織物（起毛処理加工）、生地厚の計測不可。

○幕表面鏡部（刺繍基布）

・平織白色羅紗　　…平組織毛織物（起毛処理加工）、生地厚の計測不可。

○幕裏面生地

・綾織白色木綿布　…１０番綾織木綿布（品名；葛城）。

○刺繍加工。

・前面幕の記述に同じ。

○房飾り用菊形座。

・前面幕の仕様に同じ。

○懸装錺金具。

・前面幕の仕様に同じ。

●調査の結果から。

◆飾り房（隅小房）について。

・白色総角（あげまき）飾り結び紐に木玉付き二つ撚り小房（４筋）は新調するにこしたことはないが、現用の小房と比して既成の小房を利用することに問題はないと考えられる。

◆当初（多分に江戸末期から明治初期頃）に幕を製作した際の刺繍技法と技術については、一図柄の模様に輪郭を際立たせるために紙撚り使いを多用し、また太細の紙撚りの使い分けとそこに薄い綿の肉入れ等をして、その上へ諸撚り糸や唐撚り糸を使った両駒遣いまた片駒遣いの綴じ糸刺繍を行い、刺繍基布に直繍い刺繍して作品を作っているのが大方にいえる。また図様を立体的そして写実的に仕上げるために糸の種類と太さを多用に替えて作業を行い実物に近い表現を成そうと試みているようである。刺繍を重ねて行い、実物の様な表現を演出している個所も随所に見られる。こうした丁寧でかつ表現に拘った刺繍技法は江戸後期に始まって明治期には成立していく。それらの技術がより精密に成って超絶技巧と呼ばれる特殊な刺繍技法を生み出した。日本刺繍が完成したとでもいえる時期の作品である。ただそうした外見は使用と経年による経緯とその後の修理で探ることさえできなくなった状態だといえる。こうした刺繍技法と技術を理解し、それを行える技術者で製作の対応をされたい。

◆錺り金具については再利用の検討を含めて、修理および製作の仕様については技術者と相談の上で進められたい。また材質調査についてはデーターの結果は製作の参考に扱うも製作において厳密な対応は必要ないといえる。何故ならば他の染織や漆、木部の分野にあっても材質調査や製作に対応が可能といえども、そこまでに経費を懸けて製作に対応していない。特に染織品の製作にあっては本体と付属の材を含めて経費、時間に関して均衡性を保つ必要がある。

●参考（図柄について）

・笏（しゃく）…束帯着用時に右手に持つ一尺二寸（約 36cm）の細長い板で、今は神主などが使用する。正しくは「こつ」と訓むが、骨に通じるのを嫌って長さ「尺」の音を借用。

・太刀（たち）…大概には官吏が帯びる儀杖用の刀剣。

・中啓（ちゅうけい）…半（中）ば啓（ひら）いた意で、儀式用の扇。外側二本の親骨の上端が弓成りに反り、閉じた時も半ば開いているように見える。末広とも。

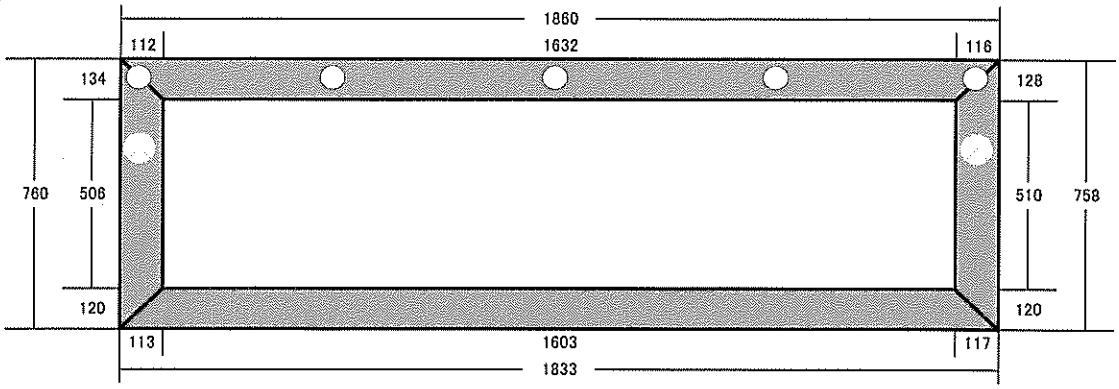
・軍配（ぐんばい）…「軍配うちわ」の略で「団扇」とも、昔に大将が戦の指揮を採るに際して用いた団扇形の道具。「唐扇」とも。

◆本幕を復元新調をする場合にあっては、その製作仕様について委員会および幕所有の町、事務局等で充分に検討を行い、製作仕様の詳細を明確に提示した上で見積もりを実施し、常に製作仕様等に内容の確認をして進めることが望ましい。高密度の仕事内容からして単独の業者が提示する仕様のみで進行することのないように注意が必要。

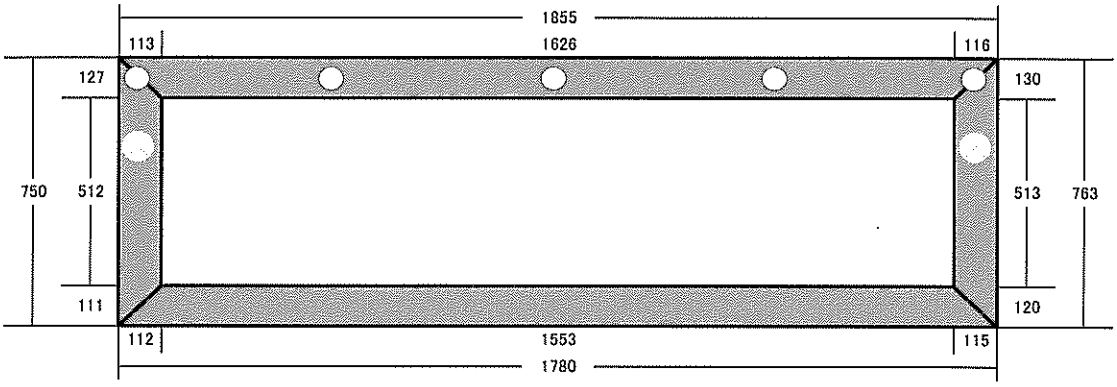
以　上。

名栗町水引幕

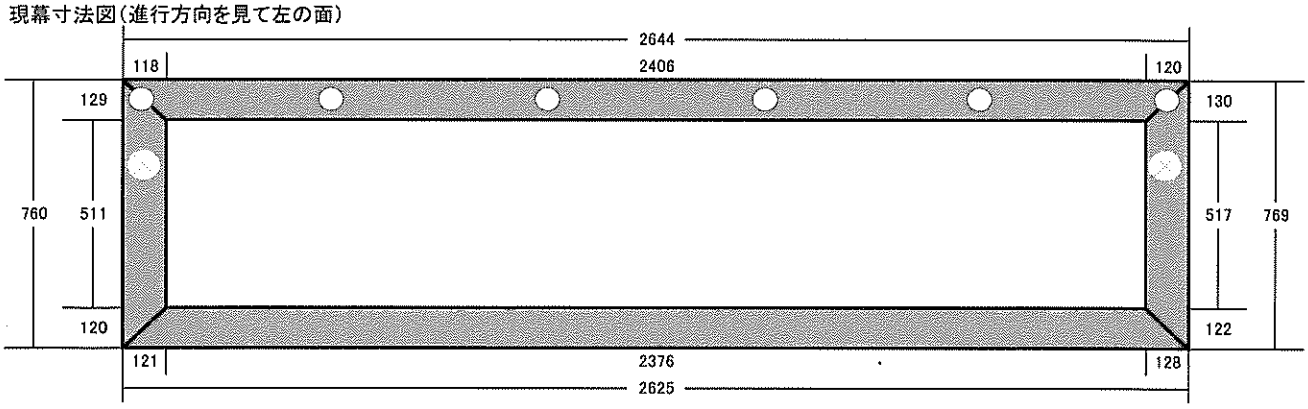
現幕寸法図(前面)



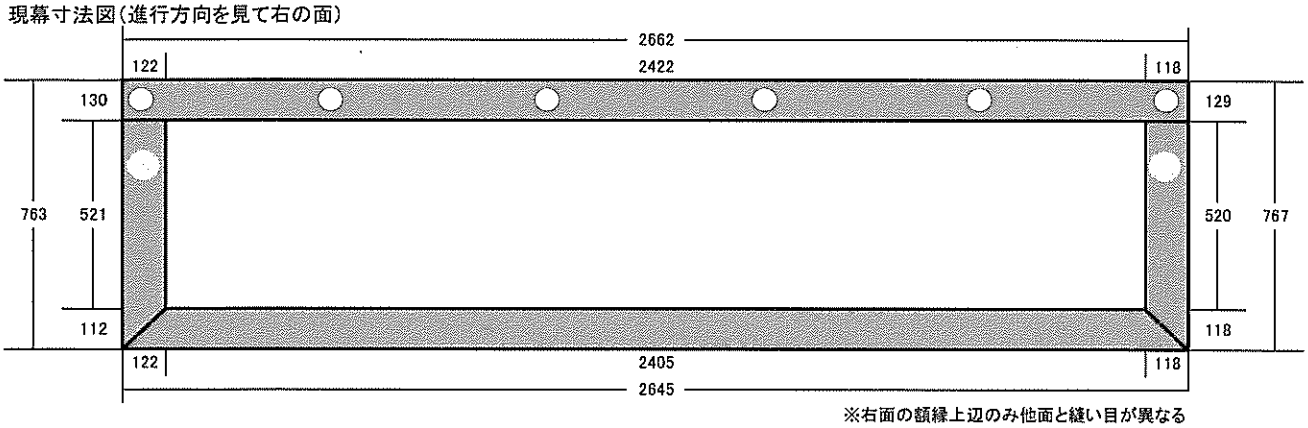
現幕寸法図(後面)



現幕寸法図(進行方向を見て左の面)



現幕寸法図(進行方向を見て右の面)

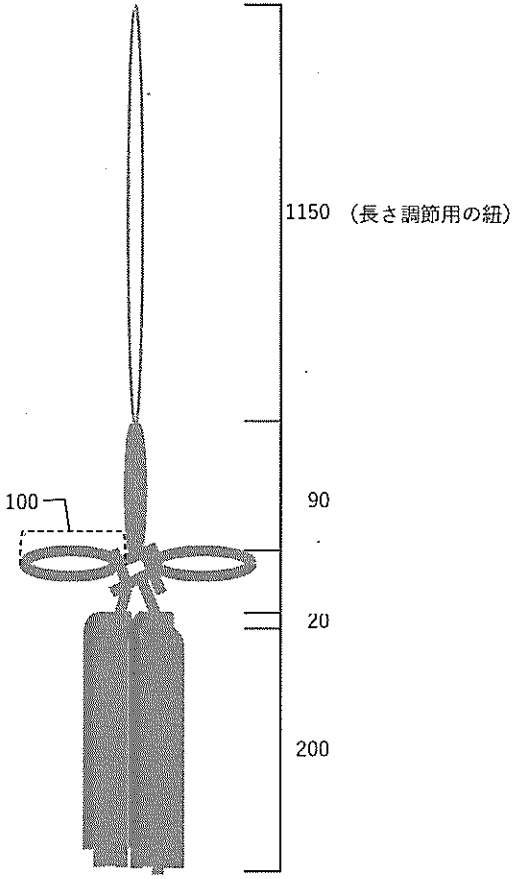


※右面の額縁上辺のみ他面と縫い目が異なる

名栗町

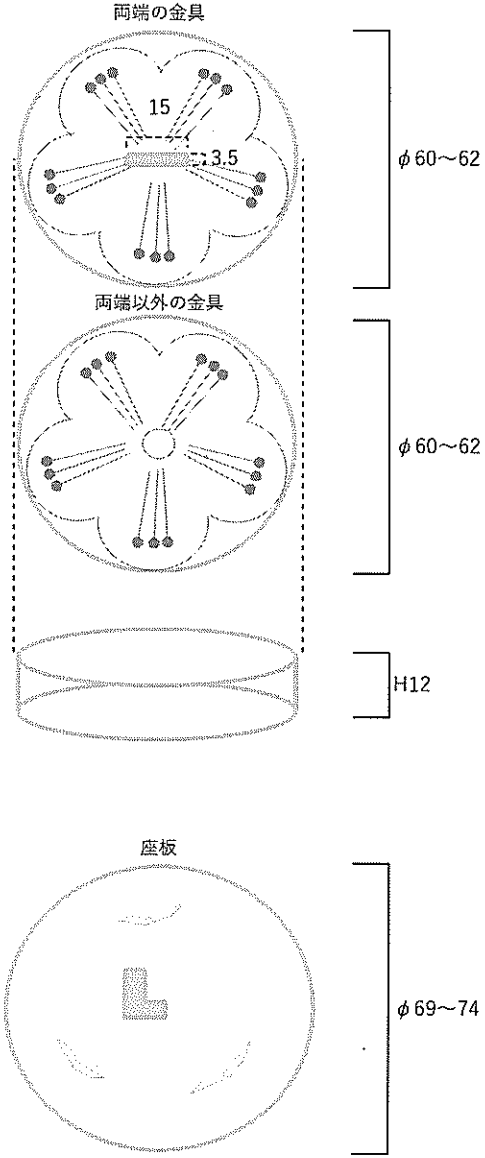
水引幕用現用房（4本）

（mm）



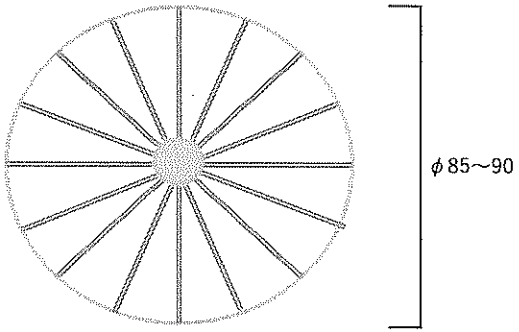
水引幕錺金具（計22個）

（mm）



菊座（計8個）

（mm）



・花弁枚数：16～19枚
・中央のハトメ金具：外径19mm 内径11mm